

# 第3次 長久手市食育推進計画

2022~2026

食でつながるまち ながくて





# 目次

第1章 計画策定の趣旨 .....	1
1 計画策定の背景 .....	1
2 国・県の食育推進計画 .....	3
3 計画の位置づけ .....	7
4 計画の期間 .....	7
5 計画の策定体制 .....	8
◆ 長久手市みんなで作るまち条例にかかる取組 ◆ .....	8
第2章 長久手市の食を取り巻く現状 .....	9
1 人口・世帯状況などの動向 .....	9
2 市民アンケートの概要 .....	12
3 数値目標の達成状況 .....	32
4 食育推進に向けた主要課題 .....	36
第3章 計画の理念と方針 .....	38
1 計画の基本理念 .....	38
2 計画の基本目標 .....	39
3 計画の体系 .....	40
第4章 推進計画(食育推進の展開) .....	41
1 食を通じて健康な体をつくる .....	41
1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践 .....	41
1-2 生活習慣病や肥満等の予防 .....	44
1-3 食の安全に関する理解促進 .....	44
2 食を通じて豊かな心を育む .....	45
2-1 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進 .....	45
2-2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進 .....	46
2-3 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承 .....	47

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築く .....	48
3-1 食生活における環境への配慮 .....	48
3-2 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大 .....	49
4 食育を支える取組を推進する .....	51
4-1 食育にかかる人材の育成と活動の充実 .....	51
4-2 食育推進のための連携・協働体制の構築 .....	51
4-3 食育推進のための啓発、情報提供 .....	51
<b>第5章 計画の推進 .....</b>	<b>53</b>
1 計画の推進体制 .....	53
2 数値目標 .....	55
<b>資料編 .....</b>	<b>57</b>
1 計画策定の経過 .....	57
2 長久手の食育を考えるワークショップ News Letter .....	58

## 1 計画策定の背景

食は命の源であり、私たち人間が生きるために食は欠かせません。また、人々が健康で心豊かな生活を送るためには、健全な食生活を日々実践し、おいしく楽しく食べることやそれを支える社会や環境を持続可能なものにしていくことが重要です。

しかしながら、我が国の食をめぐる環境は大きく変化してきています。高齢化が進行する中で、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防が引き続き国民的課題となっており、栄養バランスに配慮した食生活の重要性が増しています。また、人口減少、少子高齢化、世帯構造の変化や中食<sup>※1</sup>市場の拡大が進行するとともに、食に関する人々の価値観や暮らしのあり方も多様化し、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えてきています。さらには、古くからその地域で育まれてきた伝統食や行事食が失われていくことも危惧されるようになってきています。

国では、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくことを目的として、2005（平成 17）年6月に食育基本法を制定し、あわせて食育の推進に取り組むための基本計画を策定しています。現在は、2021（令和3）年3月に「第4次食育推進基本計画」が策定され、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、持続可能な食を支える食育の推進を基本的な方針（重点事項）として様々な施策が推進されています。また、愛知県においても、これを受けて、2021（令和3）年3月に「あいち食育いきいきプラン2025（第4次愛知県食育推進計画）」が策定され、食育の実践による健康で活力ある社会の実現を目指しています。

本市では、食育基本法の制定を受けて、2007（平成 19）年3月に「長久手町食育推進計画」、2016（平成 28）年3月に「第2次長久手市食育推進計画」を策定し、食に関する施策に取り組んできました。食や健康を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、計画の進捗状況を分析し、より現在の地域実情に沿った食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくために、このたび、新たに「第3次長久手市食育推進計画（以下「本計画」という。）」を策定しました。

【食育とは】農林水産省：「食育の推進」より引用

食育は、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることです。

※1 中食（なかしょく）……外食と内食（自炊）の中間を意味する言葉。飲食店やスーパーなどで購入した調理・加工済みの食品を、自宅に持ち帰って食べること。

## <SDGs と食育推進計画>

2015年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性<sup>※2</sup>のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」が示されました。

SDGsの目標の中には、「目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する」、「目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、「目標12. 持続可能な消費生産形態を確保する」など食育と関係が深い目標があります。食育を推進していくことはSDGsの達成にも寄与していくこととなります。食育推進計画はこうしたSDGsの考え方を踏まえて策定しています。



※2：包摂性（ほうせつせい）……社会的排除と反対の概念で、排除されがちな社会的に弱い立場の人も、社会の一員としてともに支え合うという考え方。

## <新型コロナウイルス感染症の感染拡大と食育>

2019年12月に中国武漢市で確認された新型コロナウイルスは、その後またたく間に世界中に感染し、世界的大流行（パンデミック）を引き起こしました。その影響は人々の生命や生活のみならず、行動・意識・価値観にまで波及しました。接触機会低減のためのテレワークの増加等により在宅時間が一時的に増加したほか、外出の自粛により飲食業・観光業ひいては農林水産業や食品産業にも様々な影響を与えました。また、在宅時間や家族で食を考える機会の増加により、食を見直す契機ともなりました。家庭での食育の重要性が高まるといった影響ももたらしています。

## 2 国・県の食育推進計画

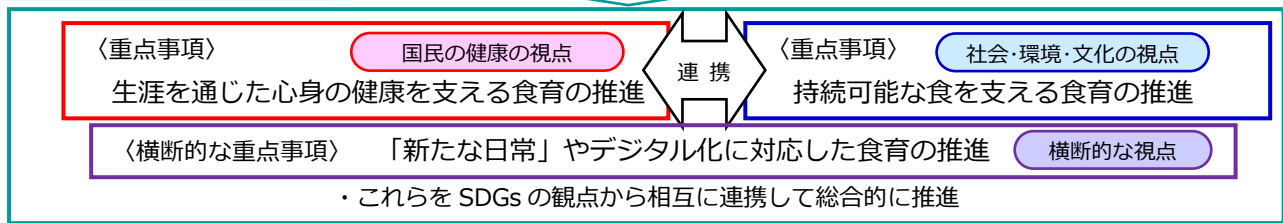
### (1) 第4次食育推進基本計画 2021～2025 (国)

第4次食育推進基本計画の概要と計画推進にあたっての目標は以下のとおりです。

#### <第4次食育推進基本計画（令和3～7年度／2021～2025）の概要>

<p style="text-align: center;"><b>食育基本法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食は命の源。食育は生きる上での基本であり、知育・徳育・体育の基礎となるべきものと位置づけ。</li> <li>○「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる食育を推進。</li> <li>○食育推進会議(会長:農林水産大臣)において食育推進基本計画を策定(2006・2011・2016年)</li> <li>○地方公共団体には、国の計画を基本として都道府県・市町村の食育推進計画を作成する努力義務</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>&lt;食をめぐる現状・課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病の予防</li> <li>・高齢化、健康寿命の延伸</li> <li>・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養</li> <li>・世帯構造や暮らしの変化</li> <li>・農林漁業者や農山漁村人口の高齢化、減少</li> <li>・総合食料自給率(加リヘース) 38%(2020年度)</li> <li>・地球規模の気候変動の影響の顕在化</li> <li>・食品ロス(推計) 612万トン(2017年度)</li> <li>・地域の伝統的な食文化が失われていくことへの危惧</li> <li>・新型コロナによる「新たな日常」への対応</li> <li>・社会のデジタル化</li> <li>・持続可能な開発目標(SDGs)へのコミットメント</li> </ul>
---	--

#### 基本的な方針(重点事項)



#### 食育推進の目標

- ・栄養バランスに配慮した食生活の実践
- ・産地や生産者への意識
- ・学校給食での地場産物を活用した取組等の増加
- ・環境に配慮した農林水産物・食品の選択 等

#### 推進する内容

##### 1. 家庭における食育の推進

- ・乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成
- ・在宅時間を活用した食育の推進

##### 2. 学校、保育所等における食育の推進

- ・栄養教諭の一層の配置促進
- ・学校給食の地場産物利用促進へ連携・協働

##### 3. 地域における食育の推進

- ・健康寿命の延伸につながる食育の推進
- ・地域における共食の推進
- ・日本型食生活の実践の推進
- ・貧困等の状況にある子どもに対する食育の推進

##### 4. 食育推進運動の展開

- ・食育活動表彰
- ・全国食育推進ネットワークの活用
- ・デジタル化への対応

##### 5. 生産者と消費者との交流促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等

- ・農林漁業体験や地産地消の推進
- ・持続可能な食につながる環境に配慮した消費の推進
- ・食品ロス削減を目指した国民運動の展開

##### 6. 食文化の継承のための活動への支援等

- ・中核的な人材の育成や郷土料理のデータベース化や国内外への情報発信など、地域の多様な食文化の継承につながる食育の推進
- ・学校給食等においても、郷土料理の歴史やゆかり、食材などを学ぶ取組を推進

##### 7. 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

- ・食品の安全性や栄養等に関する情報提供
- ・食品表示の理解促進

#### 施策の推進に必要な事項

- ①多様な関係者の連携・協働の強化、②地方公共団体による推進計画の作成等とこれに基づく施策の促進 等

<第4次食育推進基本計画における食育の推進にあたっての目標>

No	目標	具体的な目標値	現状値 (2020年度)	目標値 (2025年度)
1	食育に関心を持っている国民を増やす	①食育に関心を持っている国民の割合	83.2%	90%以上
2	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす	②朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	週 9.6回	週 11回以上
3	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす	③地域等で共食したいと思う人が共食する割合	70.7%	75%以上
4	朝食を欠食する国民を減らす	④朝食を欠食する子どもの割合	* 4.6%	0%
		⑤朝食を欠食する若い世代の割合	21.5%	15%以下
5	学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす	⑥栄養教諭による地場産物にかかる食に関する指導の平均取組回数	* 月 9.1回	月 12回以上
		⑦学校給食における地場産物を使用する割合(金額 <sup>へ</sup> -)を現状値(2019年度)から維持・向上した都道府県の割合	-	90%以上
		⑧学校給食における国産食材を使用する割合(金額 <sup>へ</sup> -)を現状値(2019年度)から維持・向上した都道府県の割合	-	90%以上
6	栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす	⑨主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合	36.4%	50%以上
		⑩主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	27.4%	40%以上
		⑪1日あたりの食塩摂取量の平均値	* 10.1g	8g以下
		⑫1日あたりの野菜摂取量の平均値	* 280.5g	350g以上
		⑬1日あたりの果物摂取量100g未満の者の割合	* 61.6%	30%以下
7	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民を増やす	⑭生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民の割合	64.3%	75%以上
8	ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす	⑮ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合	47.3%	55%以上
9	食育の推進に関わるボランティアの数を増やす	⑯食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数	* 36.2万人	37万人以上
10	農林漁業体験を経験した国民を増やす	⑰農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合	65.7%	70%以上
11	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす	⑱産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合	73.5%	80%以上
12	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす	⑲環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合	67.1%	75%以上
13	食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民を増やす	⑳食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合	* 76.5%	80%以上
14	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす	㉑地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合	50.4%	55%以上
		㉒郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合	44.6%	50%以上
15	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民を増やす	㉓食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	75.2%	80%以上
16	推進計画を作成・実施している市町村を増やす	㉔推進計画を作成・実施している市町村の割合	* 87.5%	100%

注1) 学校給食における使用食材の割合(金額<sup>へ</sup>-、2019年度)の全国平均は地場産物 52.7%、国産食材 87%となっている。

注2) \*は2019年度の数値



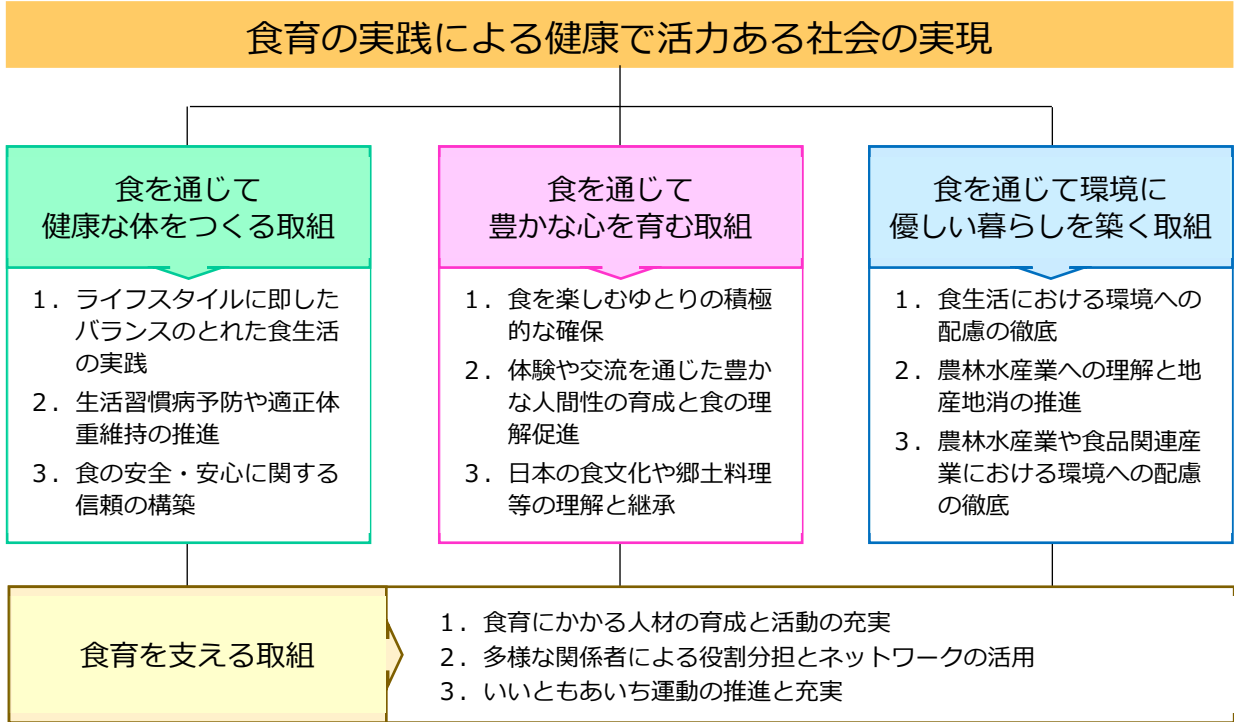
## (2) あいち食育いきいきプラン 2025 (第4次愛知県食育推進計画)

あいち食育いきいきプラン 2025 (第4次愛知県食育推進計画) が目指す姿と取組の方向ならびに数値目標は以下のとおりです。

### <プランの目指す姿と取組の方向>

- 食を通じて「健康な体をつくる」こと、「豊かな心を育む」こと、「環境に優しい暮らしを築く」ことの3つに加え、これらを「支える」取組を推進し、健康で活力ある社会の実現を目指します。
- あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに豊かに暮らすために、生涯にわたってそのライフステージと生活場面に応じた食育を進めていきます。
- これまでの取組を「継承」とともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs (持続可能な開発目標) 達成への貢献などを踏まえ、取組を「SHIN化(しんか)」(新化・進化・深化・伸化)させ、食育の実践力を高めていきます。

<p>「新化」…時代に合わせた変化          「進化」…多様な発展          「深化」…質の向上          「伸化」…横展開のつながり</p>	<p>「S」…Sustainable (持続可能な)          「H」…Healthy (健康な)          「I」…Interesting (興味深い)          「N」…Network (連携)</p>
---	---



## <食育の取組における数値目標>

### 1. 食を通じて健康な体をつくるための目標

項目	基準年(年)	目標(2025)
①朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2% (2020)	98%以上
②朝食を毎日食べる習慣がある高校生の割合	86.0% (2020)	91%以上
③朝食を欠食しない若い世代の割合	89.1% (2020)	91%以上
④適正体重の小中学生の割合	88.8% (2019)	91%以上
⑤自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している成人の割合	32.8% (2020)	35%以上
⑥永久歯にむし歯のない中学生の割合	80.6% (2019)	85%以上
⑦何でも噛んで食べることができる成人の割合	82.0% (2018)	87%以上
⑧朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9% (2020)	80%以上
⑨毎日3回以上野菜を食べる成人の割合	17.7% (2020)	20%以上

### 2. 食を通じて豊かな心を育むための目標

項目	基準年(年)	目標(2025)
⑩1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合	57.7% (2020)	70%以上
⑪農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合	77.8% (2019)	80%以上
⑫県等が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数	14.6万人 (2019)	18.5万人以上
⑬郷土料理等の食文化を家庭や地域で次世代に伝えている人の割合	41.2% (2020)	50%以上

### 3. 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標

項目	基準年(年)	目標(2025)
⑭無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合	45.8% (2020)	50%以上
⑮学校給食において全食品数に占める県産食品数の割合	40.4% (2020)	45%以上
⑯学校給食において年間に使用した県産食品の種類	55種類 (2019)	60種類以上
⑰県産農林水産物を優先して購入する県民の割合	15.4% (2020)	25%以上

### 4. 食育を支えるための目標

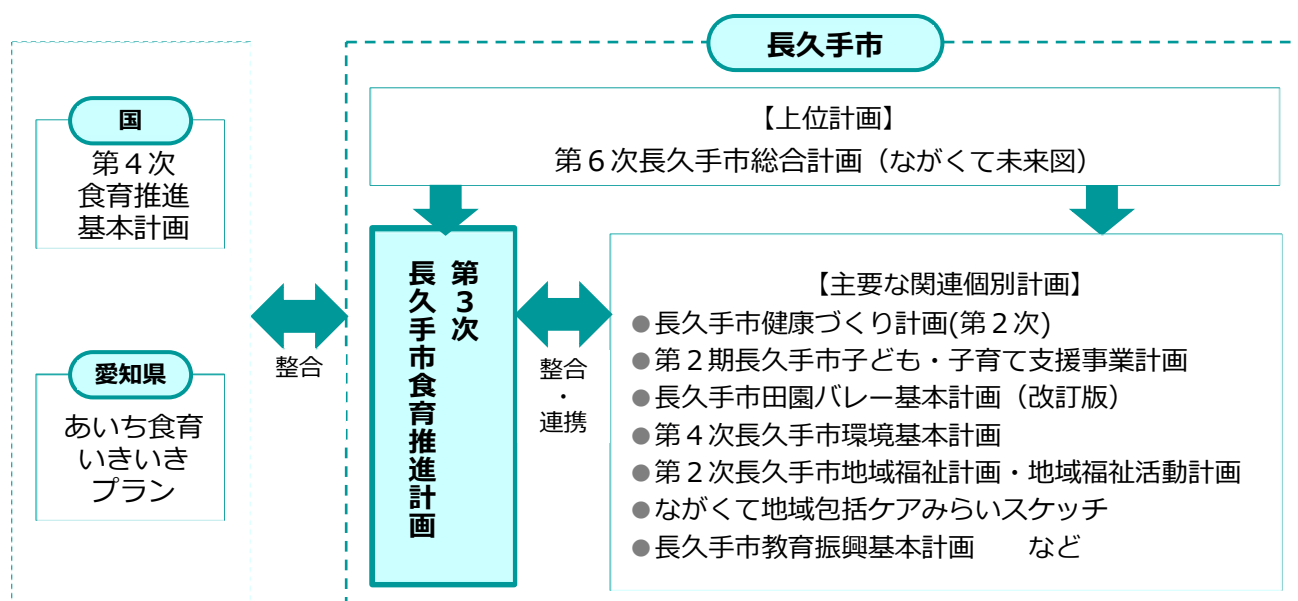
項目	基準年(年)	目標(2025)
⑱食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	11.1万人 (2019)	12万人以上
⑲食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数	227回 (2019)	240回以上
⑳「いいともあいち運動」を知っている人の割合	22.7% (2020)	28%以上

- 出典 ①②⑧⑪⑮⑯……愛知県教育委員会調べ  
 ③⑤⑨⑩⑰⑳……県政世論調査(愛知県)  
 ④……学校保健統計調査(文部科学省)  
 ⑥……愛知県地域歯科保健業務状況報告(愛知県)  
 ⑦……愛知県地域健康課題分析評価事業報告(愛知県)  
 ⑫⑬⑱……愛知県農業水産局調べ  
 ⑭⑴……消費生活モニターアンケート調査(愛知県)

### 3 計画の位置づけ

本計画は市民1人ひとりが食の大切さを理解して、主体的に食育に取り組むための指針とします。

本計画は食育基本法第18条に基づく市町村食育推進計画として位置づけられるもので、その実施にあたっては「第6次長久手市総合計画（ながくて未来図）」を上位計画としつつ、「長久手市健康づくり計画（第2次）」などの各種個別計画とも整合を図り、これらの計画に基づき実施する事業と連動して食育に取り組みます。



### 4 計画の期間

本計画の期間は、2022（令和4）年度を初年度とし、2026（令和8）年度を目標年度とする5年間とします。

計画期間中に状況の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

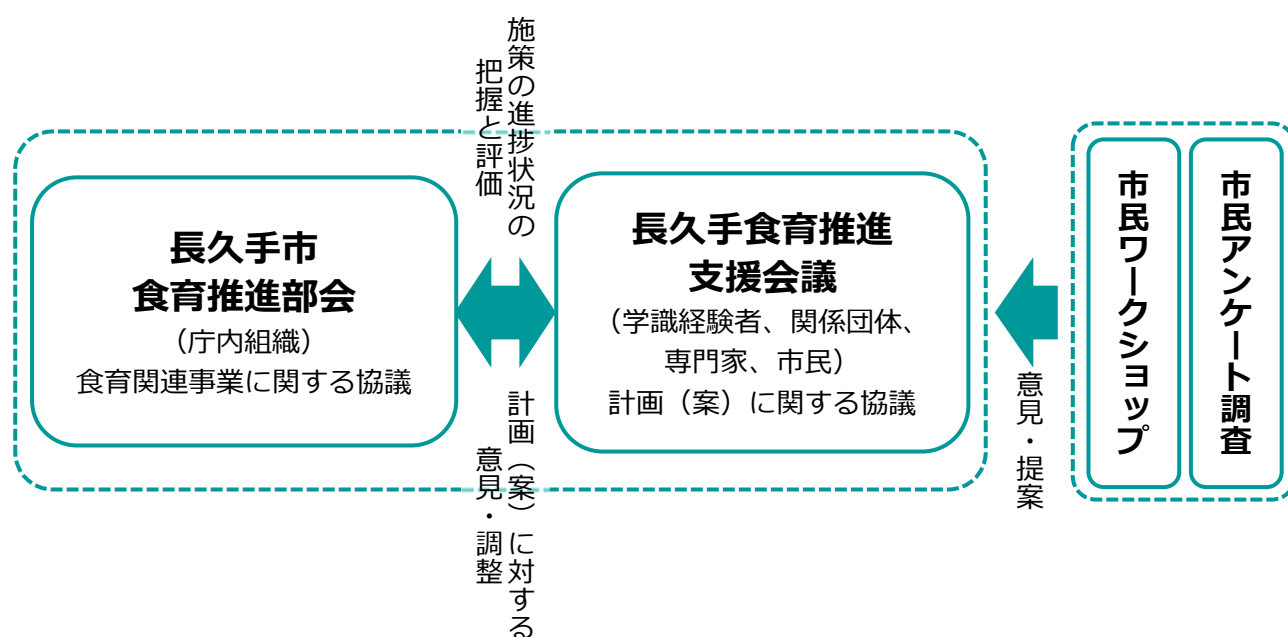
## 5 計画の策定体制

より多くの市民の協働のもとで計画を策定するために、学識経験者、食育の推進に関わる団体、専門家、市民（公募）で構成される「長久手食育推進支援会議」において、計画案に関する協議を行いました。

また、食育に関する市民アンケート調査や市民ワークショップを実施し、幅広く意見を聴取しました。

なお、庁内組織としては、食育に関連する部署の担当で構成する「長久手市食育推進部会」において、食育関連事業に関する協議を行いました。

### 第3次長久手市食育推進計画 策定体制



#### ◆ 長久手市みんなで作るまち条例にかかる取組 ◆

本計画は長久手市みんなで作るまち条例の基本三原則を踏まえ、策定作業を進めてきました。本計画に興味を持ってもらうため、「市民参加」の場としてワークショップを全3回開催し、食育推進のアイデアや計画策定後の「協働」等について意見交換を行いました。ワークショップの内容については、ニュースレターによる「情報共有」を行いました。

- (1) 食育に関するアンケート (2020年11月)
  - ・本計画の数値目標の達成状況や新たな課題の抽出を目的として実施
- (2) 長久手の食育を考えるワークショップ (2021年7月、8月、11月)
  - ・現状と課題、市民&行政が行う取組、計画(案)について意見交換
  - ・その結果はニュースレターに整理し、市民に情報共有
- (3) 長久手食育推進支援会議 (2021年12月、2022年3月)
  - ・計画案についての協議

### 1 人口・世帯状況などの動向

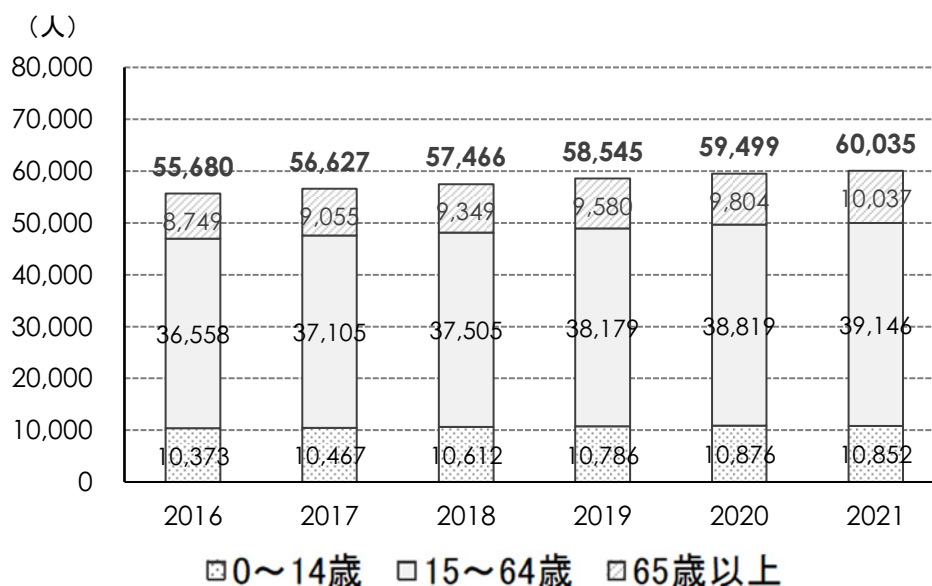
#### (1) 人口・世帯

##### ①人口の推移

本市の総人口は増加傾向で推移しており、2020年8月には人口6万人に達成しました。2021年4月1日現在では60,035人となっています。

総人口の伸び率は2020年までは1.00%を上回っていましたが、2021年はわずかながら1.00%を下回っています。3区分別の人口をみると、全国的に少子化が進行する中であっても、本市ではこれまで0～14歳人口は伸びてきましたが、2021年には0.22%の減少となっています。

図表2-1 総人口の推移



	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	平成31年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)
総人口伸び率 (%)	1.90%	1.70%	1.48%	1.88%	1.63%	0.90%
0～14歳 伸び率 (%)	1.96%	0.91%	1.39%	1.64%	0.83%	▲0.22%
15～64歳 伸び率 (%)	1.36%	1.50%	1.08%	1.80%	1.68%	0.84%
65歳以上 伸び率 (%)	4.11%	3.50%	3.25%	2.47%	2.34%	2.38%

資料：住民基本台帳（総人口）各年4月1日現在

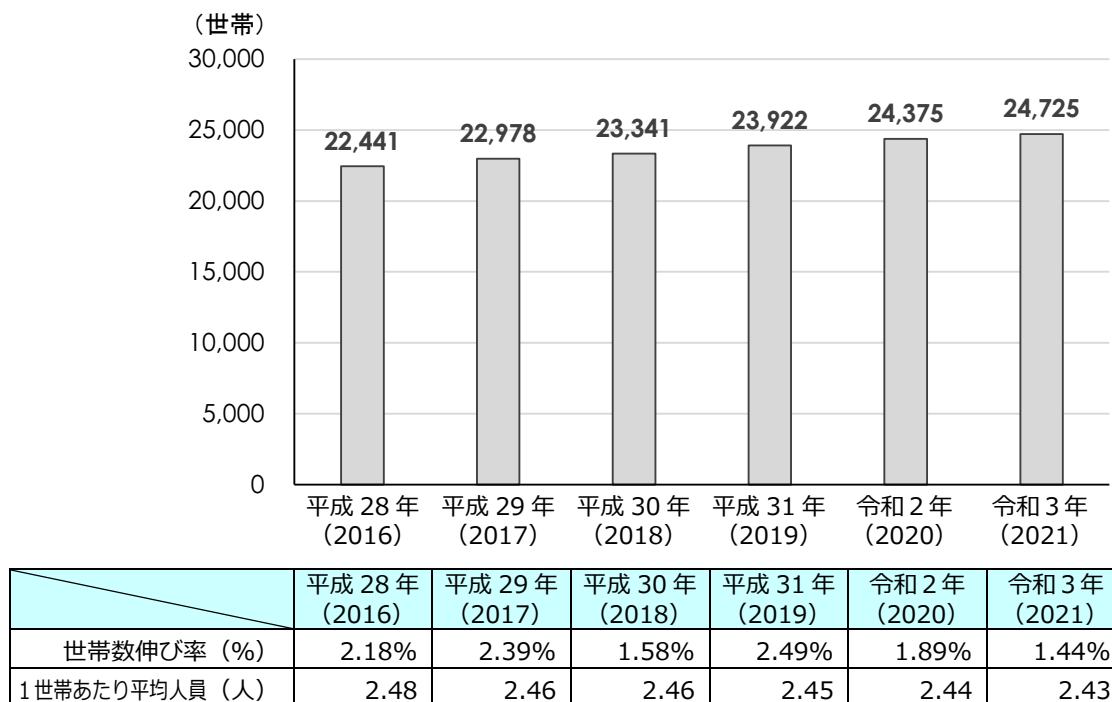
## ②世帯数の推移

本市の世帯数は増加傾向で推移しており、2021年4月1日現在で24,725世帯となっています。世帯数の伸び率は2021年に1.44%となり、やや落ち着きをみせています。

1世帯あたり平均人員については2.4人台で推移しています。

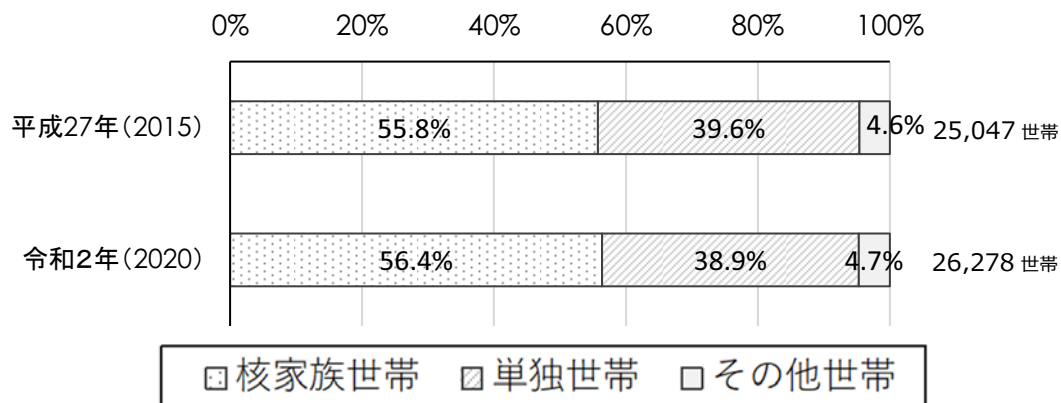
世帯の家族類型別一般世帯数をみると、単独世帯が38.9%とほぼ4割を占めています。1人暮らしの世帯が多いことから、孤食の割合も高いことが想像されます。

図表2-2 世帯数の推移



資料：住民基本台帳（総人口）各年4月1日現在

図表2-3 世帯の家族類型別一般世帯数



資料：国勢調査 各年4月1日現在

## (2) 農 業

### ①農家数の推移

2020年農林業センサスによると、本市の農家の総戸数は293戸で、うち自給的農家が228戸、販売農家が65戸となっています。農家数は減少傾向にあります。

図表2-4 自給的農家・販売農家別農家数

	総戸数	自給的農家	計	販売農家	
				専業農家	兼業農家
平成22年(2010)	421	296	125	10	115
平成27年(2015)	359	260	99	32	67
令和2年(2020)	293	228	65	12	53

※農家………経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は経営耕地面積が10a未満であっても調査期日前1年間の農作物販売金が15万円以上あった世帯

※自給的農家………経営耕地面積が30a未満かつ農作物販売金額が50万円未満の農家

※販売農家………経営耕地面積が30a以上又は農作物販売金額が50万円以上の農家農家

資料：農林業センサス

図表2-5 経営規模別農家数

	総戸数	0.5ha未満	0.5~1ha	1~2ha	2ha以上
平成22年(2010)	125	55	59	7	4
平成27年(2015)	104	52	37	7	4
令和2年(2020)	69	43	18	5	3

※自給的農家は含まない

資料：農林業センサス

### ②地産地消の状況

学校給食では県内産農産物使用に努めています。県内産農産物使用割合は、2017年度には55.01%を占めるまでになりましたが、2019年度・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策にかかる学校の臨時休校などの影響で低下しています。

市内産農産物の使用割合は、生産ロットが課題となって、大きく伸ばすことはできていません。

図表2-6 学校給食における地産地消の状況

	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)
県内産農産物使用割合	47.30%	52.75%	55.01%	44.13%	28.40%	30.22%
市内産農産物使用割合	1.46%	1.01%	0.57%	0.70%	1.61%	2.07%

※地元農畜産物の全体に占める割合(重量ベース)(米飯、牛乳除く)

資料：長久手市給食センター

## 2 市民アンケートの概要

食育推進計画の改定にあたって、2020年度に市民、児童生徒及び保護者へのアンケート調査を実施しました。調査概要は図表2-7のとおりです。

調査結果の要点を第2次食育推進計画の基本目標に沿って整理します。

図表2-7 食育に関するアンケート調査（調査概要）

### ■ 1 市民アンケート

調査対象	・1995年4月2日～2001年4月1日生まれまでの満19歳～25歳までの方、及び昭和45年4月2日生まれまでの満50歳以上の方を対象としました。 (保護者アンケートとの重複を避けるため満26歳～49歳を対象から除きました。) ・上記を対象とし、人口の年齢比にあわせて無作為に2,000人を抽出しました。
調査方法	・郵送配布、郵送回収
調査期間	・2020年11月13日(金)に郵送にて発送し、12月7日(月)を返信期限として回収
回収状況	・配布数2,000票 有効回収数852票(回収率42.6%)

### ■ 2 保護者アンケート

調査対象	・長久手市内の保育園、小学校5年生、中学校2年生の保護者 (内訳) 保育園児 1,211人 小学校5年生 744人 中学校2年生 574人 計2,529人
調査方法	・保育園又は学校を通じて配布、回収
調査期間	・2020年11月16日(月)より各保育園・学校に配布し、12月7日(月)を回答期限として回収
回収状況	・有効回収数1,753票(回収率69.3%) (兄弟がいる場合は、各家庭で一通の回答(年上の子で回答)としたため、園児・児童生徒数の計と配布数は一致しない。)

### ■ 3 児童・生徒アンケート

調査対象	・小学生 長久手市内の小学校5年生 744人 ・中学生 長久手市内の中学校2年生 574人
調査方法	・学校を通じて配布、回収
調査期間	・2020年11月16日(月)より各学校に配布し、12月7日(月)を回答期限として回収
回収状況	・配布数 1,318票 有効回収数1,271票(回収率96.4%) (内訳) 小学校5年生 744票 有効回収数725票(回収率97.4%) 中学校2年生 574票 有効回収数546票(回収率95.1%)



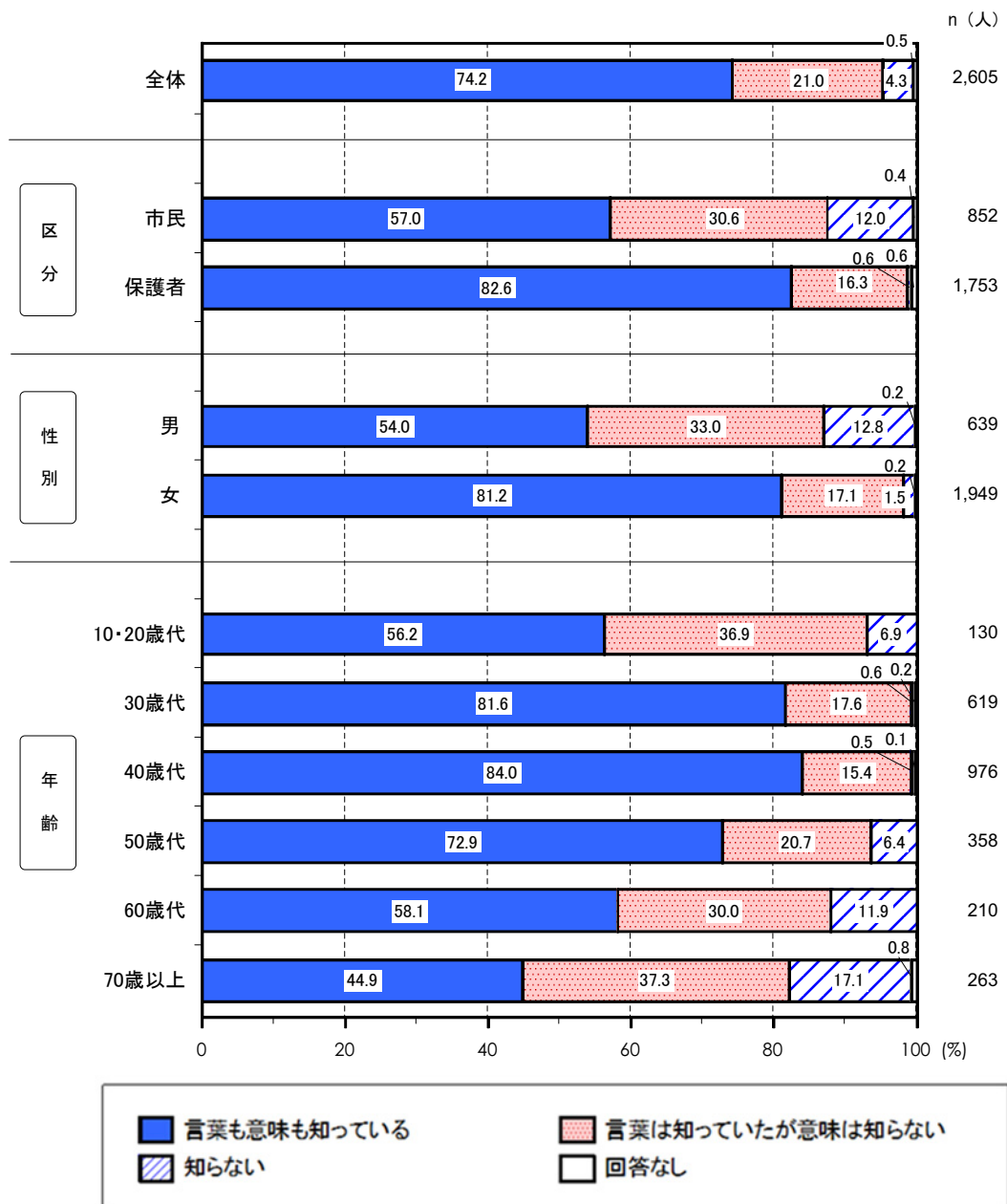
# (1) 食を通じて健康な体をつくります

## ①食育

### (「食育」という言葉の認知度)

○保護者世代では、「食育」に関する認知度・関心度はいずれも9割以上と高い割合を示していますが、中高齢者になると認知度・関心度が低くなっています。また、女性と比べ男性の「食育」に対する認知度・関心度が低くなっています。中高齢者や男性向けの「食育」の推進が必要です。

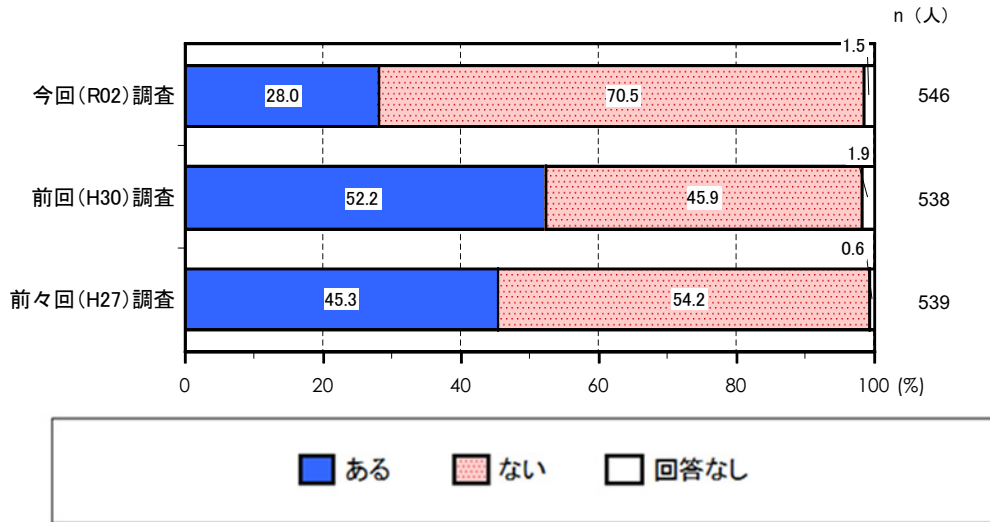
図表2-8 「食育」という言葉の認知度（市民・保護者）



### (中学生が「食育」について見聞きする機会)

○新聞やテレビ等で「食育」に関することを見たり聞いたりしたことがある生徒の割合は、前回調査の52.2%に対して、今回調査では28.0%と大きく低下しています。

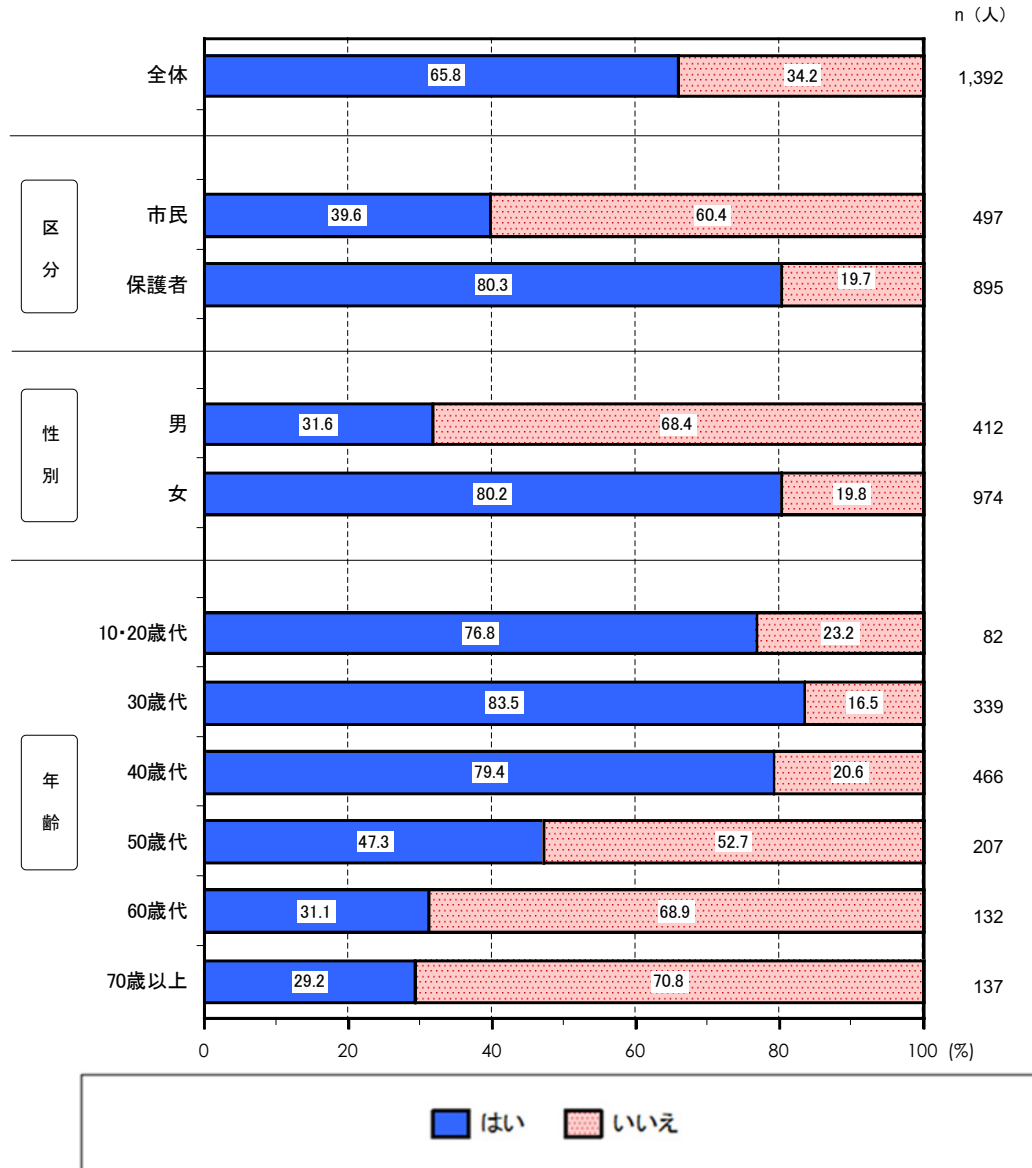
図表2-9 「食育」という言葉の認知度(中学2年生)



## (食事バランスガイド・食育ガイドの周知と活用)

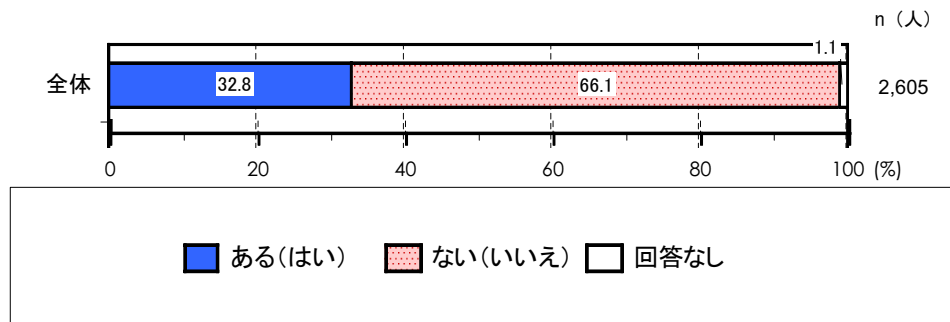
○食事バランスガイド・食育ガイドは、保護者世代である30・40歳代には比較的良好に知られていますが、50歳代以上になると認知度は大きく低下しています。中高齢者への「食育」への関心向上と同様に、こうした中高齢者への周知が必要です。

図表2-10 食事バランスガイドの認知度（市民・保護者）



○食事バランスガイドは3人に2人は知っていますが、それを活用したことがある人は約3割にとどまっています。経年的にみると活用している人の割合は増えていますが、食事バランスガイドの活用につなぐ取組が必要です。

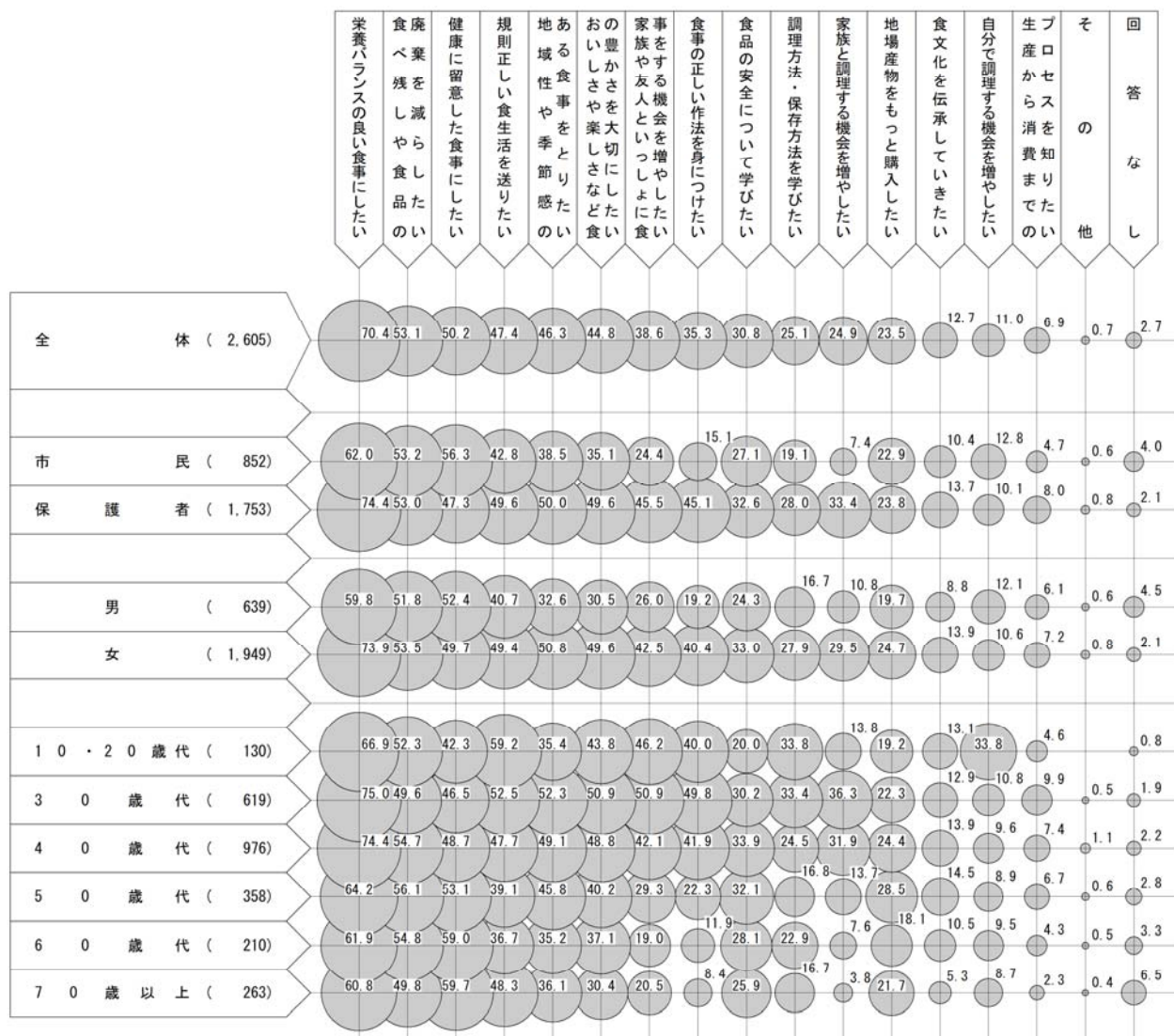
図表2-11 食事バランスガイドの活用（市民・保護者）



## 〔食育〕として力を入れたいこと

- 「食育」として力を入れたいこととしては、「栄養バランスの良い食事をしたい」、「食べ残しや食品の廃棄を減らしたい」、「健康に留意した食事をしたい」が半数以上の回答を得ています。ただし、回答は多岐にわたっています。
- 10・20歳代では、「自分で調理する機会を増やしたい」が比較的高くなっている点特徴的です。

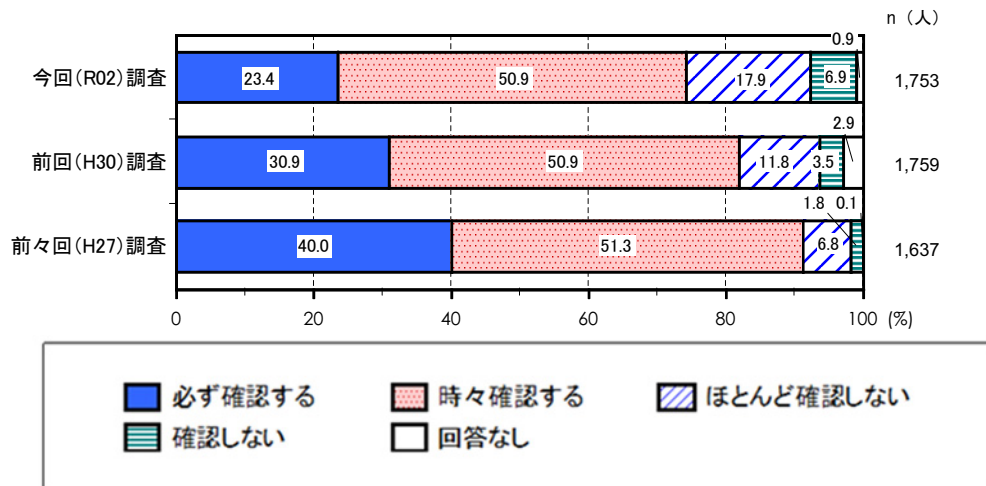
図表2-12 「食育」として力を入れたいこと（市民・保護者）



### (食の品質表示等への意識)

○栄養成分、原産地、添加物や品質の表示を「必ず確認する」とする人が、前々回調査（2015年）の40.0%から、今回調査（2020年）では23.4%にまで低下しています。食の品質表示等への意識が低下している傾向が顕著となっています。

図表 2 - 13 食の品質表示（保護者）

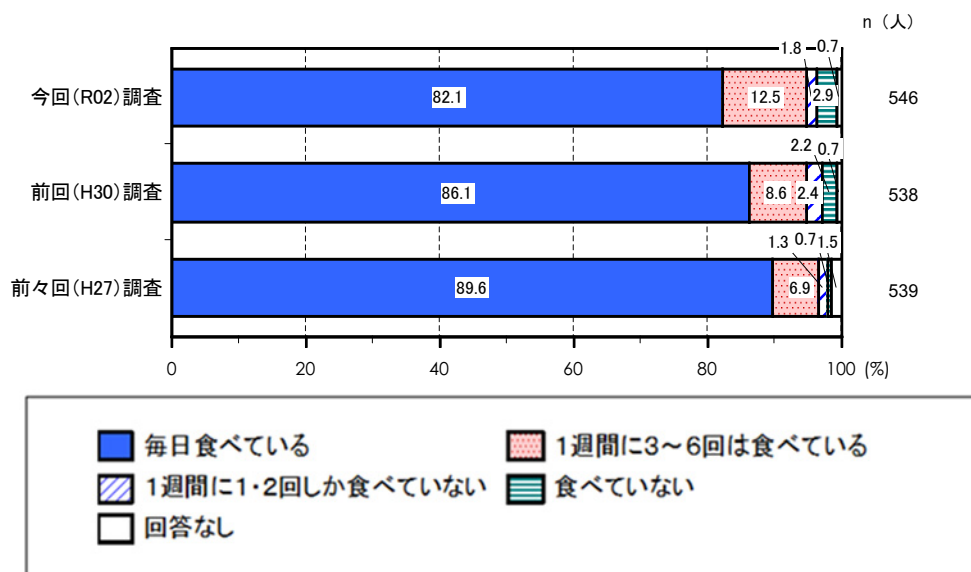


## ②食生活

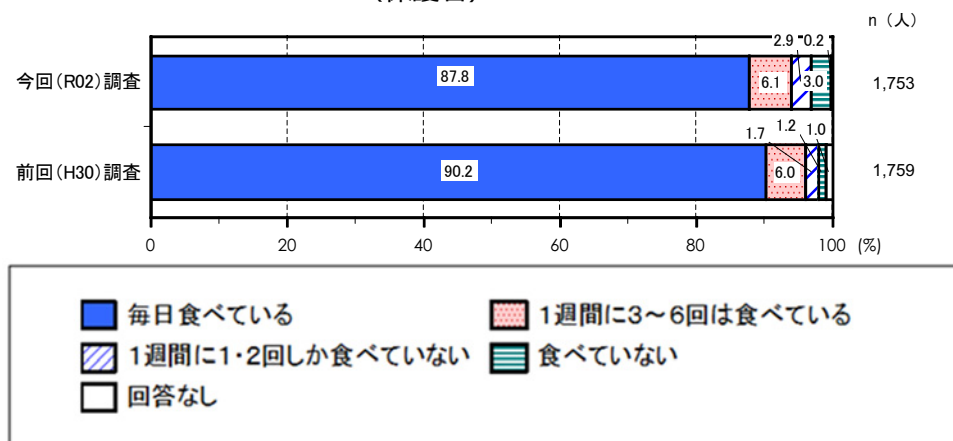
### (朝食を欠食する人の増加)

- 児童・生徒では、特に生徒（中学2年生）で欠食する人の割合が3%程度の水準にまで増加しています。同時に、「毎日食べている」の割合が経年的に低下してきています。
- 保護者でも欠食割合が高まる傾向をみることができます。
- 朝食を食べない理由は、「時間がないから」が最も大きな理由となっています。

図表2-14 朝食を食べる頻度  
(中学2年生)



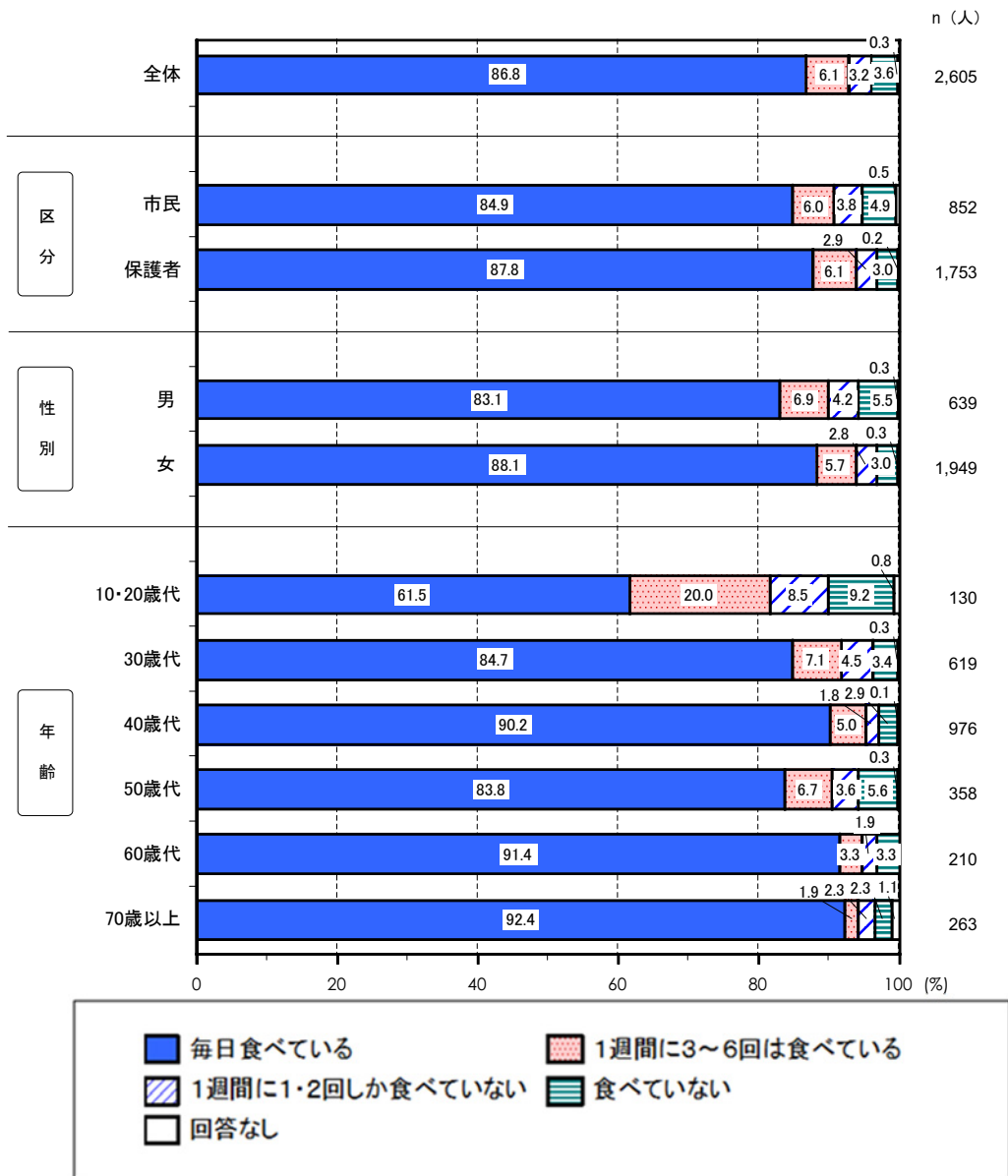
### (保護者)



### (若者世代の朝食の欠食)

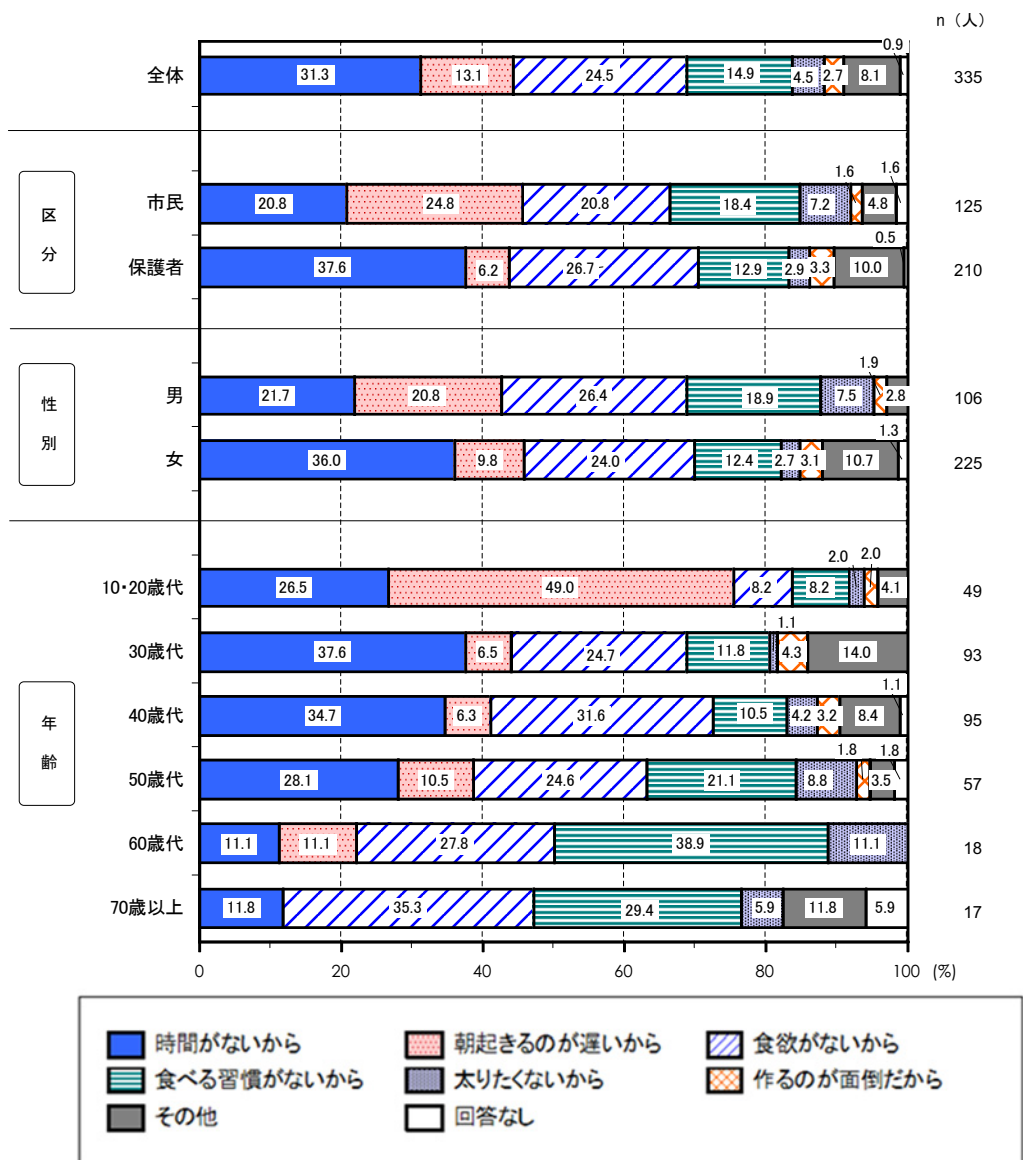
○10・20 歳代では、朝食の欠食割合が 9.2%と他の世代と比べ非常に高い水準にあります。その主な理由は、「朝起きるのが遅いから」となっています。

図表 2 - 15 朝食を食べる頻度 (市民・保護者)





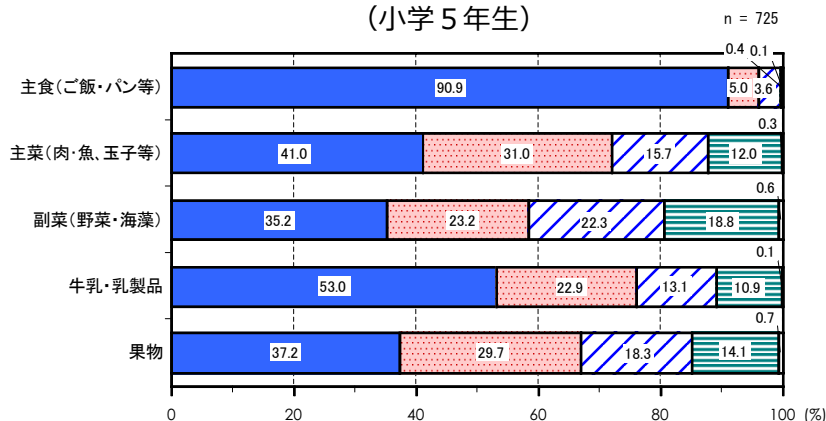
図表2-16 朝食を食べない理由（市民・保護者）



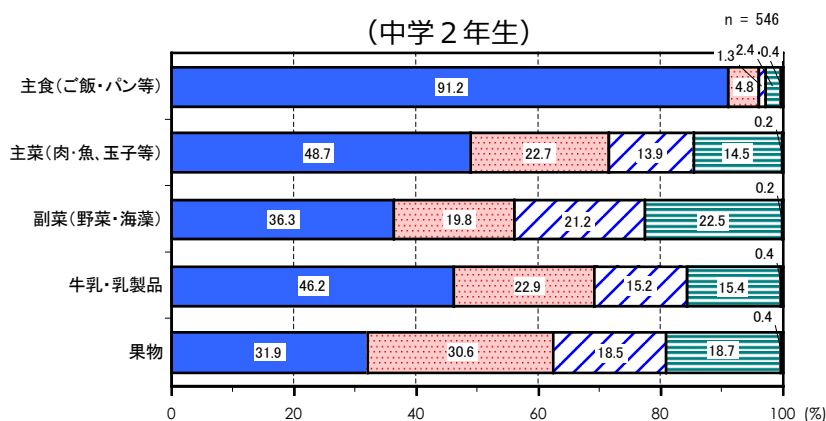
## (朝食での野菜・海藻の摂取)

- 児童・生徒では、主食、主菜、牛乳・乳製品などと比べ、朝食で副菜（野菜・海藻のおかず）をとる割合が低いという傾向がみられます。経年的にみて若干の増加はみられるものの、相対的な摂取割合の低さは改善されていません。
- 朝食で副菜（野菜・海藻のおかず）をとらない割合は、年齢層が若くなるほど高く、10・20歳代では3割を占めています。

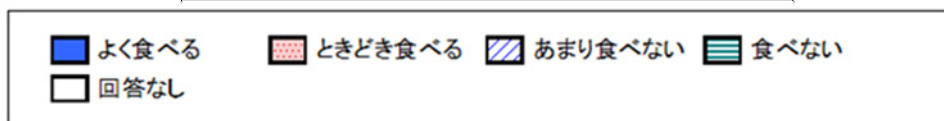
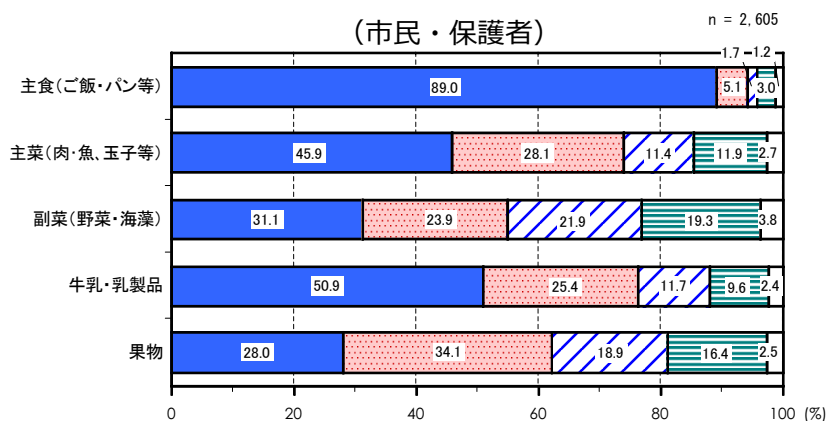
図表2-17 朝食で食べるもの  
(小学5年生)



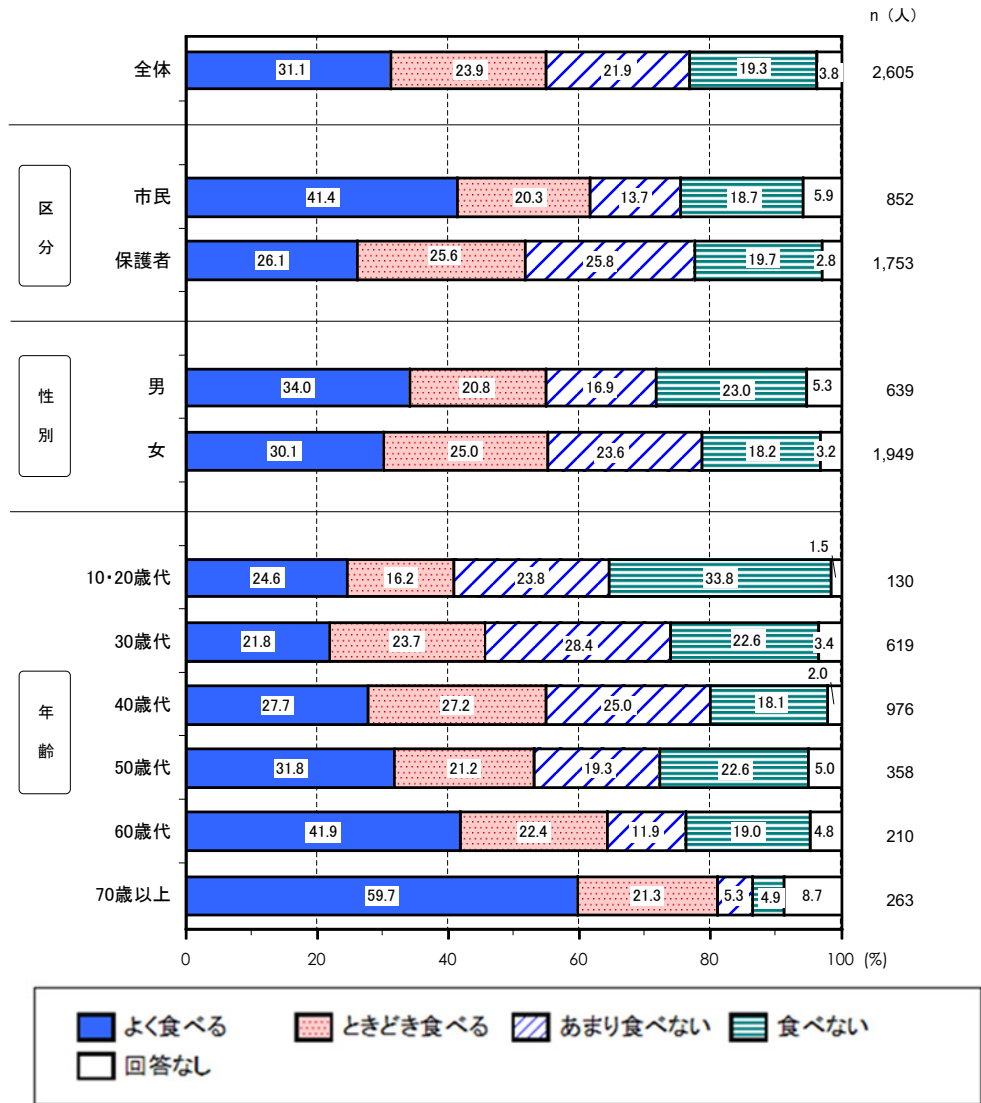
(中学2年生)



(市民・保護者)



図表 2-18 朝食で食べるもの [副菜について] (市民・保護者)



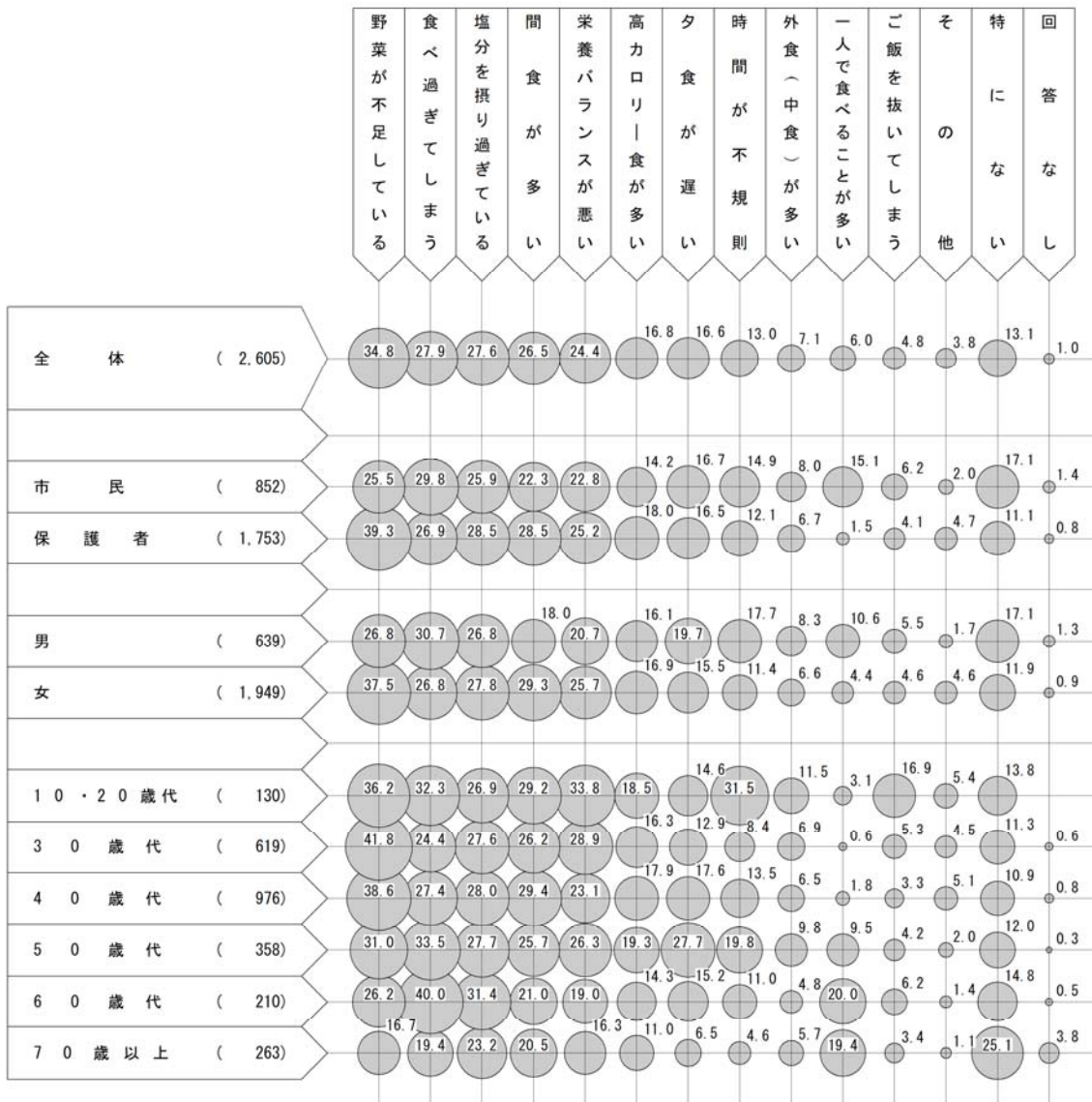
## (野菜不足との認識)

- 食生活上問題だと思ふことをたずねると、そのトップは「野菜が不足している」となっています。野菜不足を認識していても、実際の摂取は不足しているという状況がうかがえます。

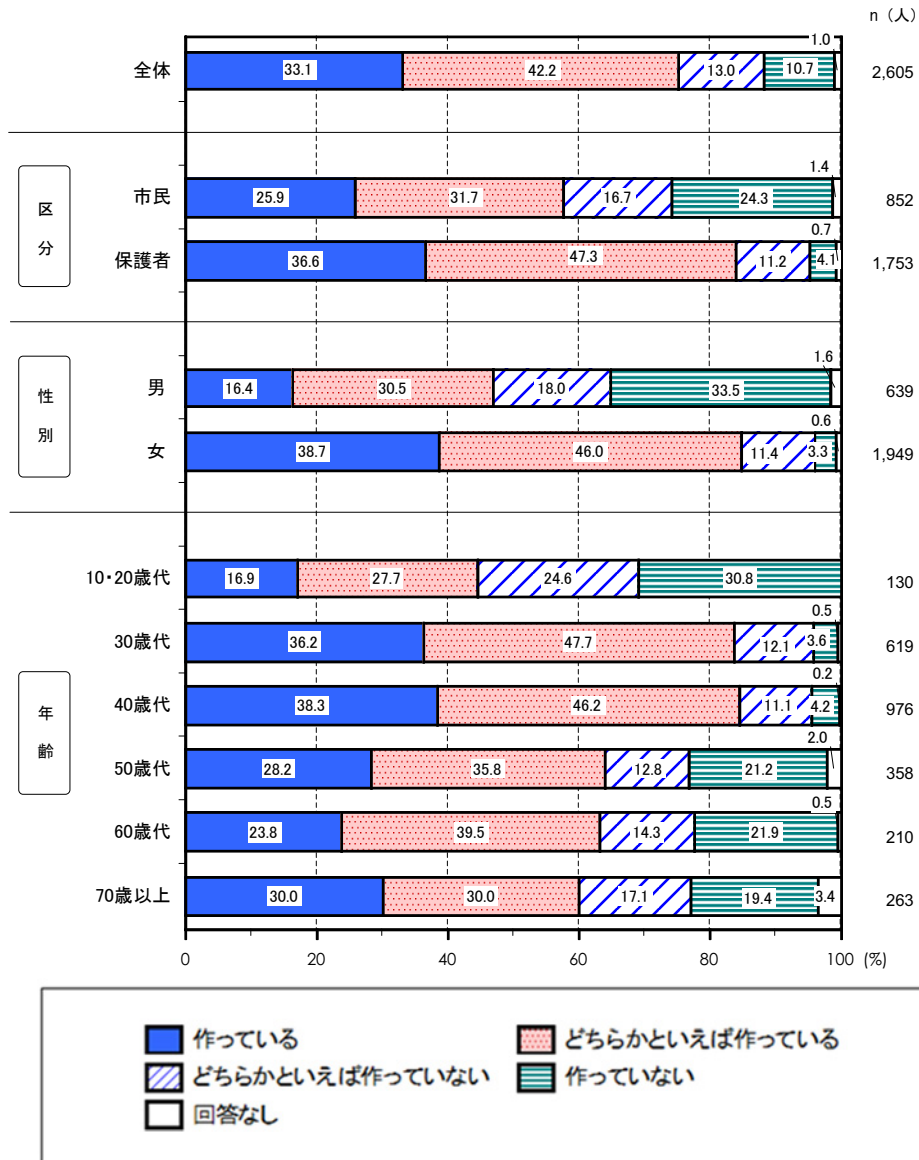
## (体のことを考えた食事づくり)

- 保護者では、体のことを考えて食事をつくる人が8割以上と多数を占めていますが、50歳代以上になると、その割合は5割程度にまで低下しています。体のことを考えた食事づくりについて中高齢者への意識づけが必要です。

図表2-19 食生活上問題だと思ふこと (市民・保護者)



図表2-20 体のことを考えた食事づくり（市民・保護者）

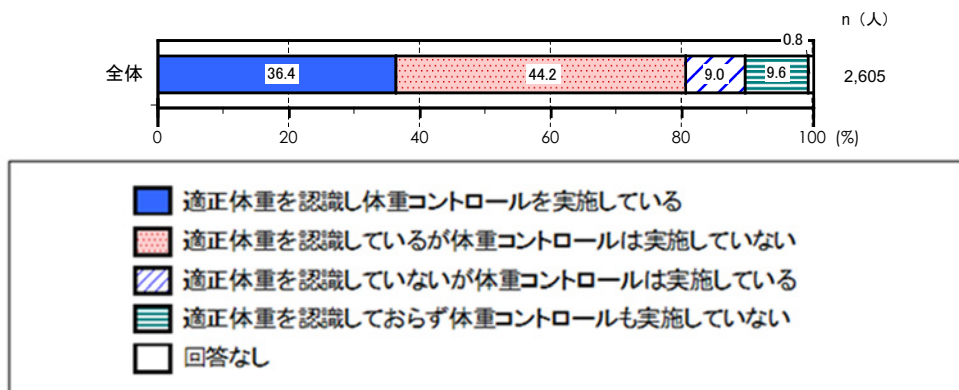


③食と生活習慣

(適正体重と体重コントロール)

○適正体重を認識している人は8割を占めているものの、このうち体重コントロールを実施する人は半数に満たないといった状況を見ることができます。

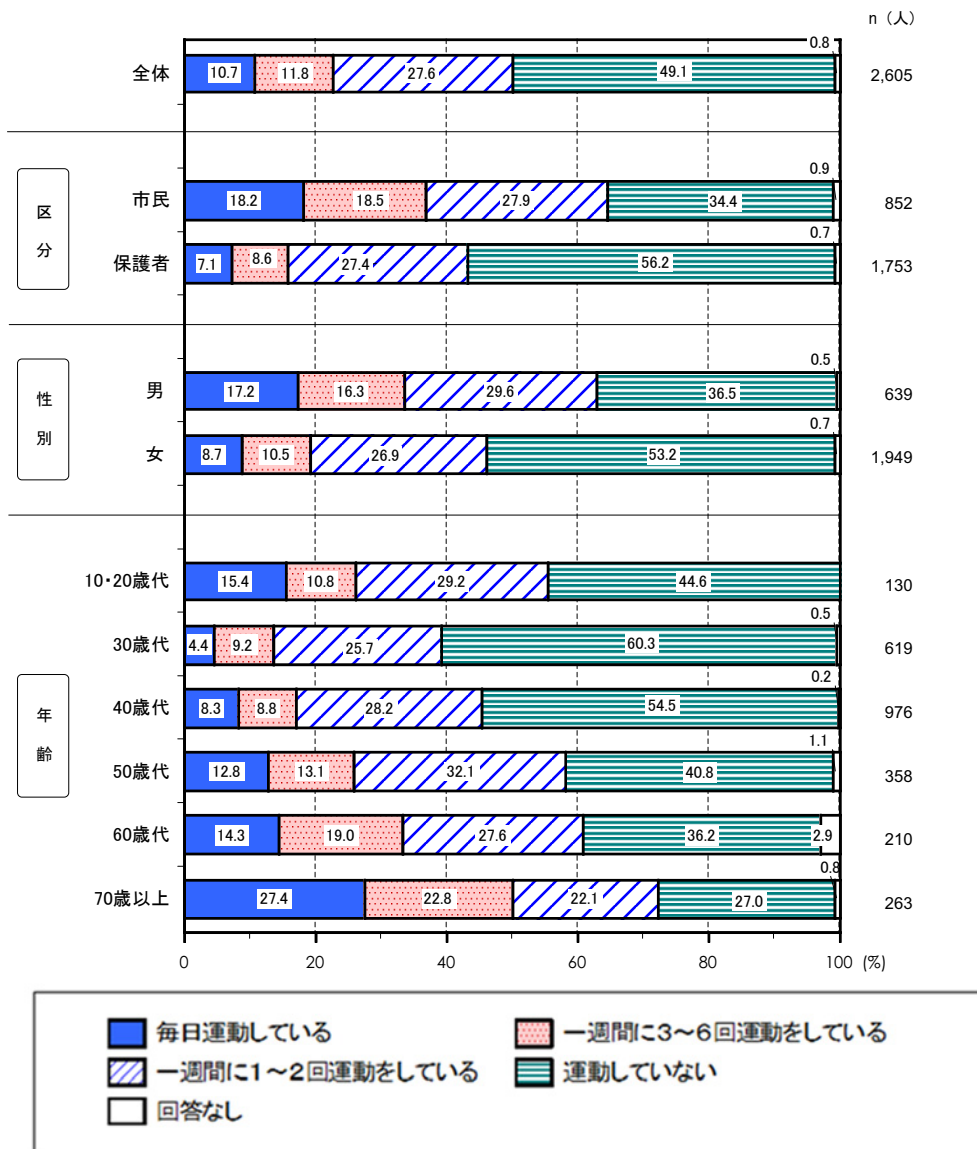
図表2-21 適正体重への意識（市民・保護者）



**(保護者世代・女性の運動不足)**

○保護者世代となる 30・40 歳代では、週 1 回以上の運動実施率がほかの年齢層と比べて低くなっています。また、女性の運動実施率が低いことも顕著です。

図表 2 - 22 定期的な運動 (市民・保護者)



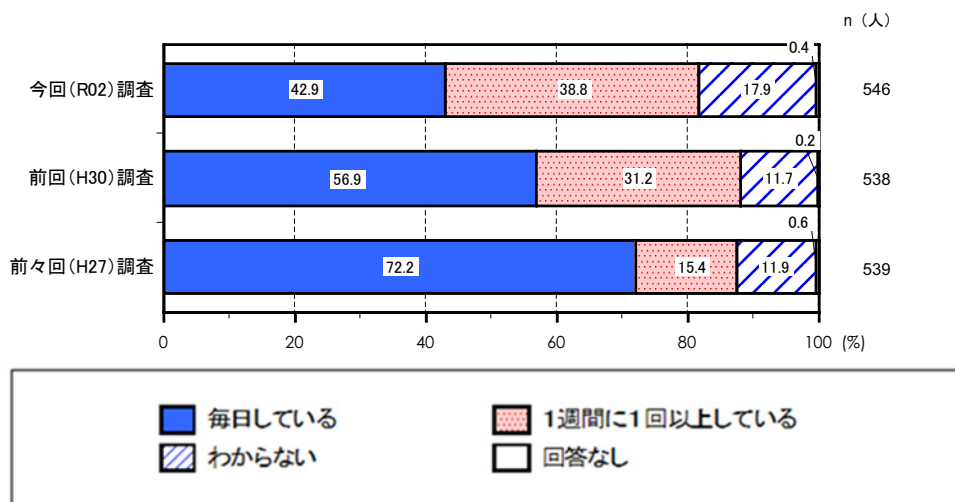
### (中学生の運動実施率)

○週1回以上運動する生徒の割合はわずかに減少していますが、毎日運動する生徒は、前々回調査の72.2%から42.9%と大きく減少しています。

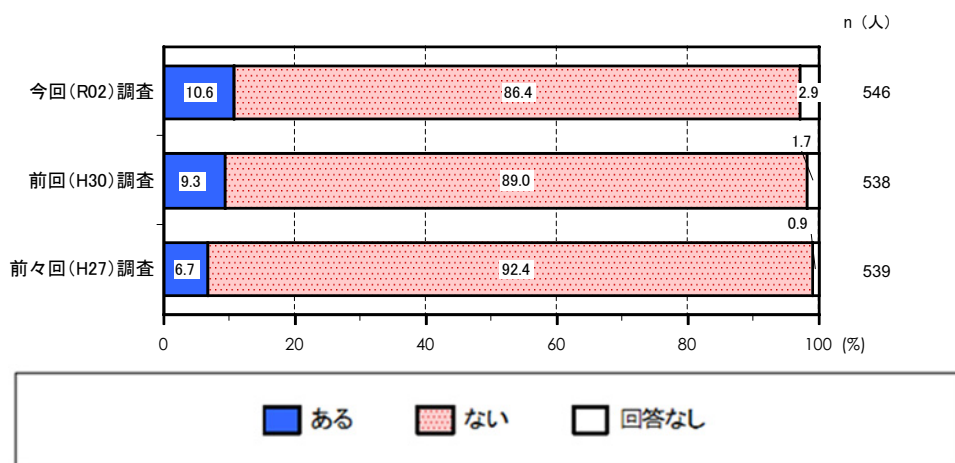
### (中学生のダイエットと食事)

○ダイエットを考えて食事をとらないことがある生徒が増加しています。

図表2-23 体育の授業以外での運動 (中学2年生)



図表2-24 ダイエットで食事をとらないこと (中学2年生)



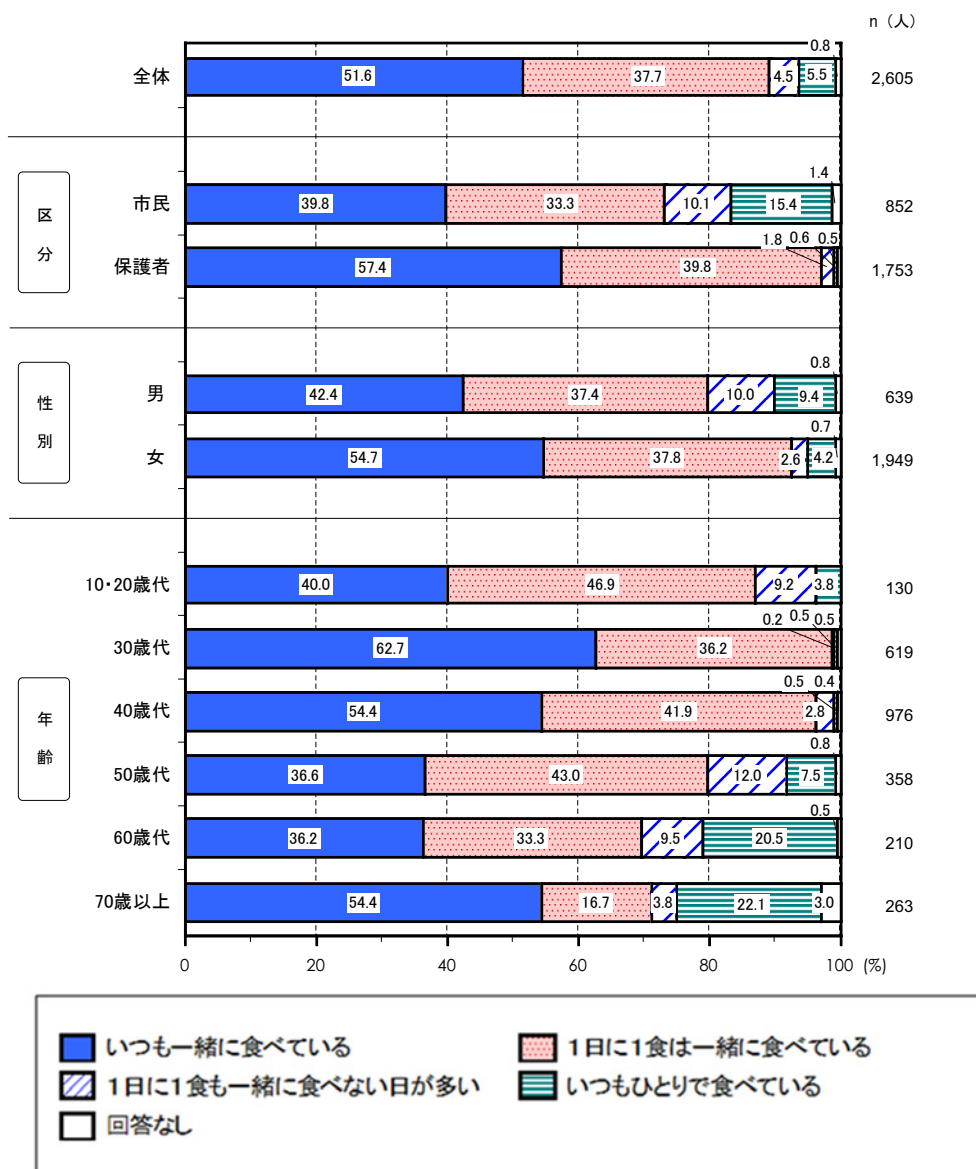
## (2) 食を通じて豊かな心を育みます

### ① 家族・友人等との食事

#### (中高齢者の孤食)

○児童・生徒、保護者では少ないものの、中高齢者では「いつも1人で食べている」の割合が高く、60歳代以上になると2割超となっています。

図表2-25 家族や友達と食事する状況 (市民・保護者)

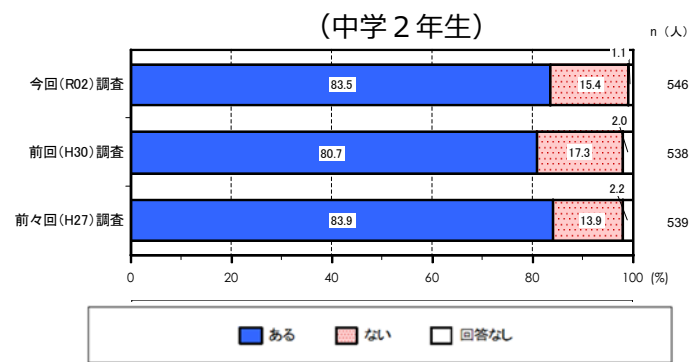
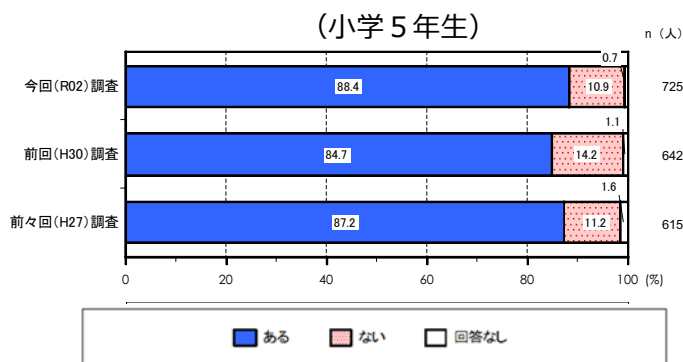
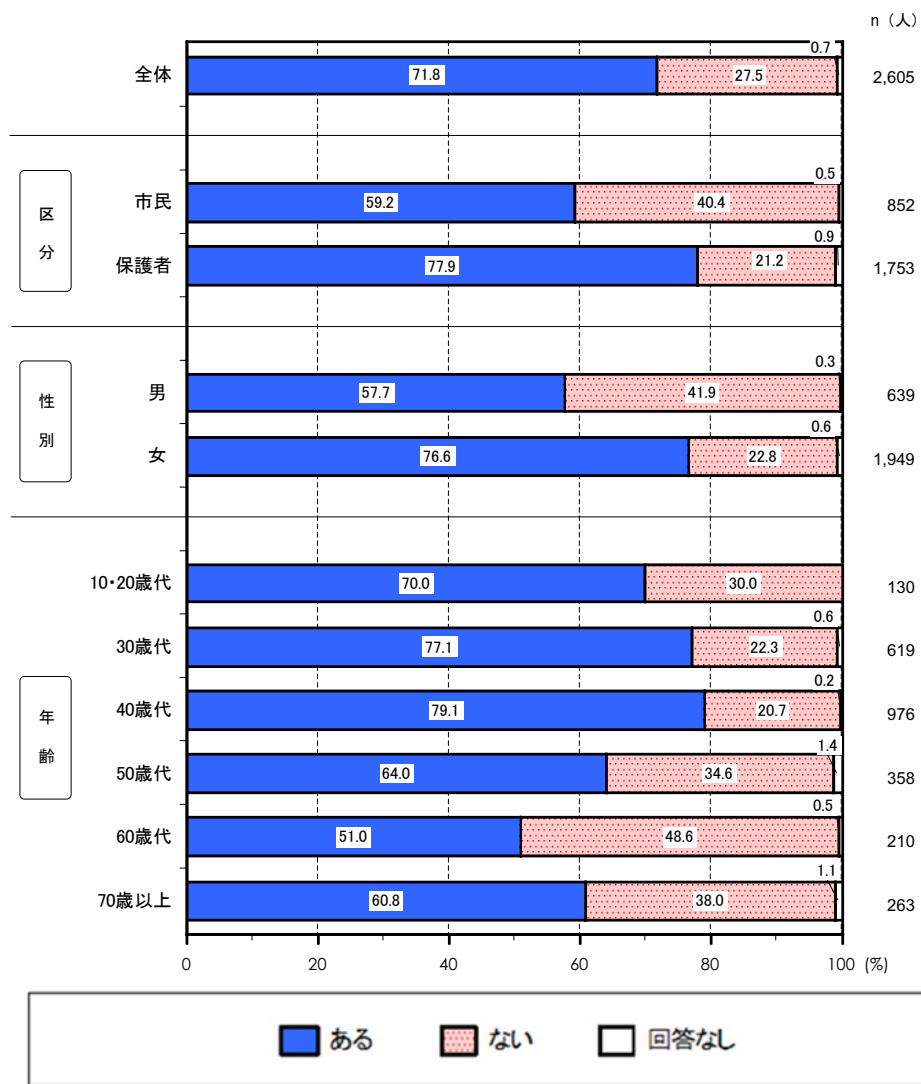




②食文化  
(農作業体験)

○市民・保護者では、農作業体験をしたことが「ある」は約7割となっており、児童・生徒では8割を超えています。これらの子育て世代・子ども世代よりも、50・60歳代で農作業体験が少ない傾向がみられます。

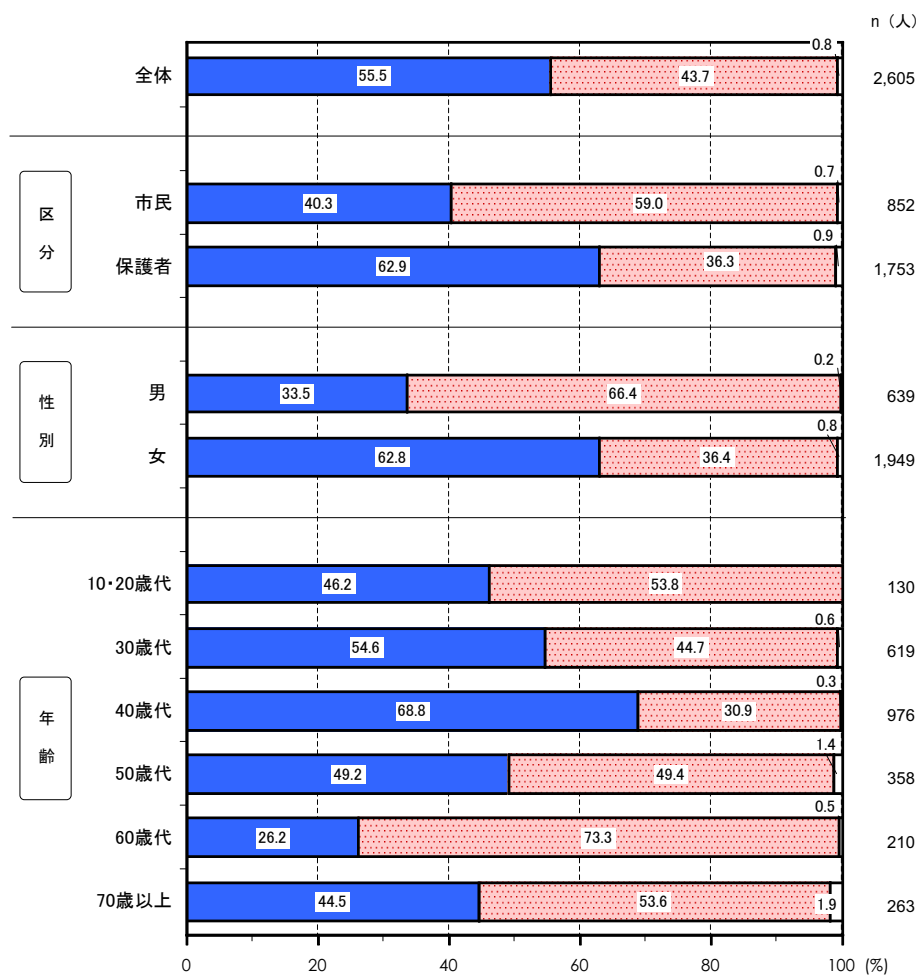
図表2-26 農作業体験の有無(市民・保護者)



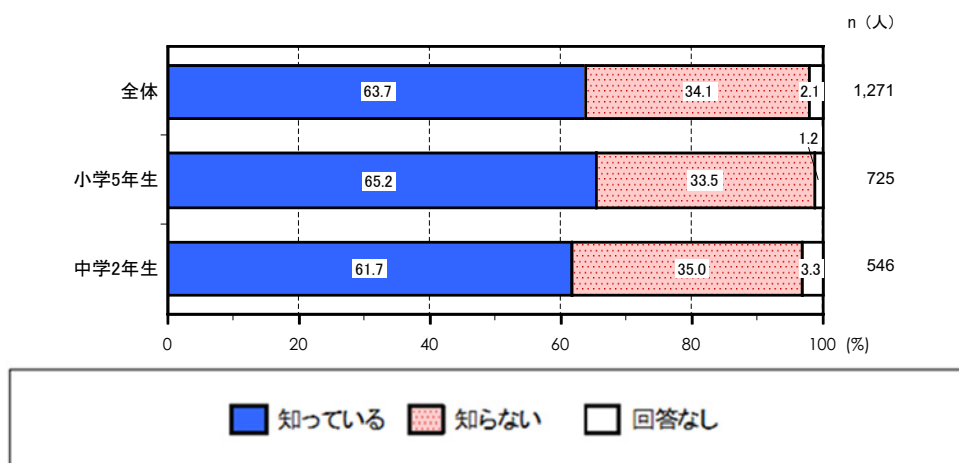
### (伝統的野菜・郷土料理の認知度)

○伝統的な野菜や郷土料理の認知度は、市民・保護者で 55.5%です。また、児童（小学5年生）では 65.2%、生徒（中学2年生）では 61.7%でともに6割を上回っています。

図表 2 - 27 伝統的野菜・郷土料理の認知度（市民・保護者）



(小学5年生・中学2年生)



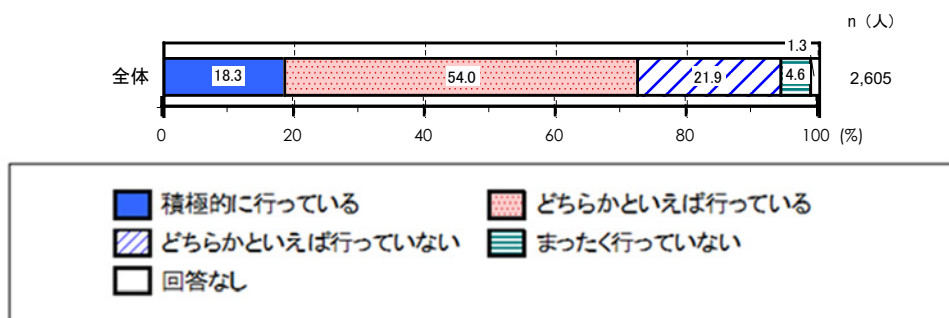
### (3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築きます

#### ① 環境配慮行動

#### (無駄や廃棄の少ない食事)

○おおむね7割の人は無駄や廃棄の少ない食事づくりを心掛けている様子が見られます。またこの割合はわずかながら増加する傾向が見られます。

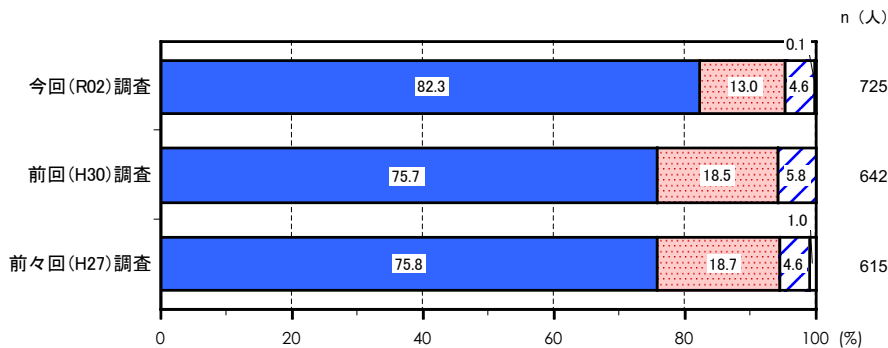
図表2-28 無駄や廃棄の少ない食事づくり (市民・保護者)



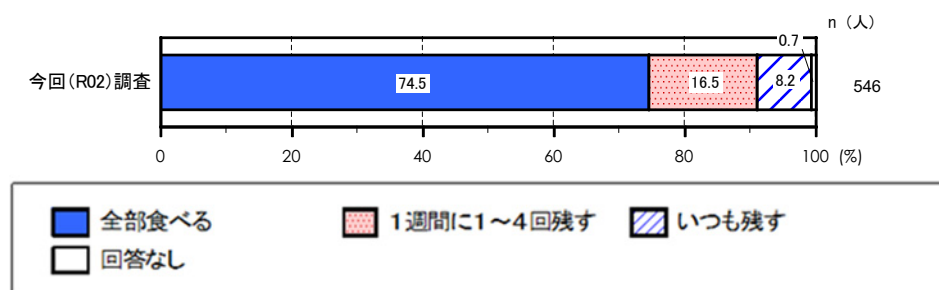
#### (給食の食べ残し)

○給食を「全部食べる」の割合は前回調査よりも高くなっています。給食を残す割合は減っています。

図表2-29 給食の食べ残し  
(小学5年生)



#### (中学2年生)



### 3 数値目標の達成状況

前計画で設定した全 11 項目からなる数値目標の達成状況は以下のとおりです。

図表 2 - 30 数値目標の達成状況

項目	指標	基準値 2015	目標値	中間値 2018	現状値 2020	評価
<b>1 食を通じて健康な体をつくるための目標</b>						
①食育の関心の向上	・食育に関心のある市民の割合 (%)	-	90.0 以上	保護者 95.4	保護者 96.9 全体 92.8	↗ ◎ 達成
②朝食の欠食割合の減少	・欠食する人の割合 児童・生徒 (%)	0.5	0.0	計 1.4 小 0.6 中 2.2	1.5 小 0.4 中 2.9	↘ ● 未達成
	・欠食する人の割合 20～30 歳代 (%)	保護者 13.1	9.0 以下	保護者 1.0	全体 4.4	
	・欠食する人の割合 男性 40～50 歳代 (%)	保護者 9.9	9.0 以下	保護者 1.3	全体 6.9	
③朝食で野菜・海藻を食べる市民の割合の増加	・朝食で野菜・海藻を食べている小中学生の割合 (%)	小中 58.3	80.0 以上	54.2 小 54.8 中 53.5	57.4 小 58.3 中 56.0	↘ ● 未達成
④食事バランスガイドの認知度の向上	・食事バランスガイド・食育ガイドを認知している市民の割合 (%)	保護者 49.5	60.0 以上	保護者 80.3	保護者 80.3 全体 65.8	↗ ◎ 達成
⑤食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合の増加	・食品購入時において、栄養成分、原産地、添加物、品質等の表示を確認する人の割合 (%)	保護者 40.0	60.0 以上	保護者 30.9	保護者 23.4 全体 22.3	↘ ● 未達成
<b>2 食を通じて豊かな心を育むための目標</b>						
⑥家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合の増加	・1日最低1食は、家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合 (%)	-	50.0 以上	保護者 96.8	保護者 97.2 全体 89.3	↗ ◎ 達成
⑦農作業に触れる市民の割合の増加	・農業体験をしたことのある子どもの割合 (%)	小中 85.6	90.0 以上	82.9 小 84.7 中 80.7	86.3 小 88.4 中 83.5	→ ● 未達成
⑧食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民の割合の増加	・1日1回以上、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民の割合 (%)	-	50.0 以上	保護者 91.7	保護者 92.0 全体 85.3	↗ ◎ 達成
<b>3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標</b>						
⑨地元の農産物を購入する市民の割合の増加	・愛知県内で生産された農産物を購入するようにしている市民の割合 (%)	保護者 34.7	50.0 以上	保護者 31.0	保護者 34.0 全体 32.1	→ ● 未達成
⑩食を通じて環境に優しい暮らしに取り組む市民の割合の増加	・無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている市民の割合 (%)	-	50.0 以上	保護者 14.3	保護者 18.8 全体 18.3	→ ● 未達成
<b>4 食を支えるための目標</b>						
⑪食育の推進に関わるボランティア数の増加	・食育の推進に関わるボランティア数 (人)	283	350 以上	244 人	201 人	↘ ● 未達成

## (1) 食を通じて健康な体をつくるための目標についての評価

- ①食育の関心の向上【↑◎達成】 (目標値 90.0%以上:現状値 96.9%)
- ・保護者に限定すると「食育」に関する認知度・関心度はともに高く、特に関心度(=『関心がある(「とても関心がある」、「関心がある」、「少し関心がある」の計)』)は96.9%と非常に高い割合を示しています。
  - ・しかしながら、中高齢者や男性では目標の90%を達成しておらず、こうした層に向けて「食育」への関心を促す取組が望まれます。
- ②朝食の欠食割合の減少【↓●未達成】 児童・生徒 (目標値 0.0%:現状値 1.5%)
- ・児童・生徒について目標は未達成となりました。特に生徒(中学2年生)で欠食する割合が3%程度の水準に達しており、むしろ増加傾向にあります。
  - ・20・30歳代、男性40・50歳代では9.0%以下という目標は達成されたものの、保護者での欠食割合は増加する傾向を示しています。
  - ・児童・生徒のような成長期の子どもたちにとっては、朝食を食べることが体づくりに非常に重要であることを理解してもらい、朝食を習慣づけていくよう働きかけていくことが必要です。
- ③朝食で野菜・海藻を食べる市民の割合の増加【↓●未達成】 (目標値 80.0%以上:現状値 57.4%)
- ・児童・生徒では、主食、主菜、牛乳・乳製品などと比べ、朝食で副菜(野菜・海藻のおかず)をとる割合が低いという傾向がみられます。児童(小学5年生)で58.4%、生徒(中学2年生)で56.1%(両者の合算では57.4%)です。この傾向は改善されていません。
  - ・愛知県教育委員会の調査によると、朝食に野菜を食べている小中学生の割合は55.9%(2020年)となっており、県の値とほぼ同水準となっています。
  - ・朝食で副菜(野菜・海藻のおかず)をとらない割合は、年齢層が若くなるほど高く、10・20歳代では3割を占めています。
  - ・「野菜が不足している」という認識は持っていることから、具体的な行動につなげていくことが課題です。
- ④食事バランスガイドの認知度の向上【↑◎達成】 (目標値 60.0%以上:現状値 80.3%)
- ・食事バランスガイド・食育ガイドは、保護者世代である30・40歳代には比較的よく知られており、目標値を大きく上回っています。
  - ・しかしながら、50歳代以上になると認知度は大きく低下しています。その結果、全体(市民+保護者)の認知度は65.8%となります。中高齢者への「食育」への関心向上と同様に、こうした中高齢者への周知が必要です。
  - ・あわせて食事バランスガイドは3人に2人は知っていますが、それを活用したことがあるのは約3割にとどまっています。食事バランスガイドの活用につなぐ取組が必要です。

⑤食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合の増加【↘●未達成】

(目標値 60.0%以上：現状値 23.4%)

- ・食品購入時において、栄養成分、原産地、添加物や品質の表示を「必ず確認する」とする人が、前々回調査の 40.0%から、今回調査では 23.4%にまで低下しています。食の品質表示等への意識が低下している傾向が顕著となっています。改善に向けた取組が望まれます。

## (2) 食を通じて豊かな心を育むための目標についての評価

⑥家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合の増加【↗◎達成】

(目標値 50.0%以上：現状値 97.2%)

- ・1日最低1食は家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合をみると、市民では 73.1%、保護者では 97.2%となっており、目標値の 50.0%は大きく上回っています。
- ・県政世論調査によると、1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく食事をする割合は 57.7% (2020 年) となっており、これと比較すると 15 ポイント以上高い割合となっています。本市の場合、比較的高い水準を維持していると考えられます。
- ・ただし、中高齢者では「いつも1人で食べている」の割合が高く、60 歳代以上になると 2 割超となっています。高齢者の孤食を改善していく取組も求められています。

⑦農作業に触れる市民の割合の増加【→●未達成】(目標値 90.0%以上：現状値 86.3%)

- ・児童・生徒では、農作業体験をしたことが「ある」の割合は 86.3%で、目標値の 90.0%に近い数値で推移しています。
- ・愛知県教育委員会の調査によると、農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合は 77.8% (2019 年) となっており、この値と比較すると 8.5 ポイント高くなっています。児童・生徒の農作業体験は比較的高い水準にあると考えられます。
- ・保護者では、農作業体験をしたことが「ある」は 77.9%となっています。これら子育て世代・子ども世代よりも、50・60 歳代で農作業体験が少ない傾向がみられます。
- ・市民向けに農作業に触れる機会を提供していくことも必要と考えられます。

⑧食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言う市民の割合の増加【↗◎達成】

(目標値 50.0%以上：現状値 92.0%)

- ・1日1回以上、「いただきます」や「ごちそうさま」を言っている市民の割合をみると、市民では 71.4%、保護者では 92.0%となっており、目標値の 50.0%は大きく上回っています。
- ・ただし、「まったく言っていない」は、70 歳以上で 19.8%、60 歳代で 18.1%となっており、高齢者世代で言わない割合が高くなっています。

### (3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標についての評価

#### ⑨地元の農産物を購入する市民の割合の増加【→●未達成】

(目標値 50.0%以上:現状値 34.0%)

- ・県内産農作物を購入するようにしている市民の割合は、市民では 28.1%、保護者では 34.0%です。目標の 50.0%には大きく及びません。
- ・ただし、県政世論調査によると、県産農林水産物を優先して購入する県民の割合は 15.4% (2020 年) であり、これと比較すると 10 ポイント以上高い割合となっています。

#### ⑩食を通じて環境に優しい暮らしに取り組む市民の割合の増加【→●未達成】

(目標値 50.0%以上:現状値 18.3%)

- ・無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている市民の割合は、市民では 17.3%、保護者では 18.8% (両者の合算では 18.3%) です。目標の 50.0%には大きく及びません。
- ・ただし、県の消費生活モニターアンケート調査によると、無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合は 45.8% (2020 年) であり、これと比較するとかなり低い水準にあります。

### (4) 食を支えるための目標についての評価

#### ⑪食育の推進に関わるボランティア数の増加【↘●未達成】

(目標値 350 人以上:現状値 201 人)

- ・食育の推進に関わるボランティア数は、2015 年の 283 人から、2020 年には 201 人となり、むしろ減少する結果となりました。

## 4 食育推進に向けた主要課題

国・県の関連計画の動向、本市の食育を取り巻く現状、第2次長久手市食育推進計画の達成状況等から、本計画策定にあたっての主たる課題を次の4点に整理しました。

### (1) 関心を実践行動につなげていく

- 子育て世代を中心に「食育」の認知度・関心度は非常に高い水準にあります。「食育」に関する啓発は一定程度の成果をもたらしていると判断されます。
- その一方で、生徒の朝食の欠食が増加する傾向がみられ、若者（10・20歳代）の朝食の欠食も目立ちます。また、保護者の朝食の欠食も増加する傾向がみられます。
- 食事バランスガイドは3人に2人は知っていますが、それを活用したことがある人は約3割にとどまっています。
- また、食生活上問題だと思うことをたずねると、そのトップは「野菜が不足している」となっています。野菜不足を認識していながらも実際の摂取は不足しているという状況がうかがえます。
- こうした結果から、知っていても・分かっていても、行動・実践が伴っていないという現状があります。この点に着目して、関心を実践行動につなげていくための取組を強化していく必要があります。

### (2) 若者を対象とした「食育」

- 本市は「日本一若いまち」といわれるように、市民の平均年齢が低いことが特徴で、また、市内に大学が4つあり“学生のまち”でもあるという特徴を持っています。
- 共働き世帯の増加、それによる子ども・若者の食への意識の変化（自分も家事を手伝う、調理をする、女性が台所に立つという考え方は古くなっている等）、食事にかかるコストの抑制（外食はお金がかかる等）、体にいいものを摂取しようとする意識など、若者にとって「食」を取り巻く環境も大きく変化しています。
- アンケート調査によると、若者世代は他の世代と比べ、朝食の欠食割合が高かったり、野菜を食べない割合が高かったりするなど若者ならではの課題がみられます。一方、若者の中には「自分で調理する機会を増やしたい」と思っている人が3割いるという結果もみられます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、在宅時間が増加したこともあり、これを「食」を見直す契機として活かしていくことも可能であると考えられます。
- 若い世代の活力や発想を活かしながら、若者を対象とした「食育」の取組を展開していくことが望まれます。



### **(3) 高齢者を対象とした「食育」**

- 50 歳代以上の中高齢者になると、「食育」に関する認知度・関心度は低くなる傾向が顕著です。例えば食育バランスガイド・食育ガイドの認知度も、50 歳代以上になると大きく低下しています。中高齢者への「食育」への関心を高揚していくとともに、「食」に関する正しい情報を中高齢者へ向けて発信していく必要があります。
- 子育て世代では、子どものために体のことを考えて食事をつくる人が8割以上と多数を占めていますが、子育てを終えた世代になると、体のことを考えて食事をする人の割合は6割程度にまで低下しています。体のことを考えた食事づくりについて中高齢者への意識づけが必要です。
- また、中高齢者では「いつも1人で食べている」の割合が高く、60歳以上になるとその2割以上が「孤食」となっているのが実情です。「孤食」は自身の健康にも悪影響を及ぼし、社会とのつながりの希薄化を招くことも危惧されるところです。
- 本市でも、高齢化の進行は将来的に必ず抱える課題です。上記のような課題解決に向けて、高齢者を対象とした「食育」の取組を展開していくことが必要です。

### **(4) 農業が身近にある環境を活かした「食育」**

- 本市では、都市と農が「共生」する田園地域を実現すべく、「農ある暮らし」を目指す施策を推進しています。農とのふれあい・交流・体験の場としての“あぐりん村”はその中核施設となっています。
- 児童・生徒では、農作業体験をしたことが「ある」の割合は86.3%で、目標値の90.0%には達していませんが、比較的高い水準にあると考えられます。平成こども塾での農作業体験は本市の特徴的な事業でもあります。
- このほか、農業を学ぶ場としての長久手農楽校が開校されており、農作業体験ができる環境や農を通じて食を考える場がすでに用意されている点は本市の大きな強みといえます。
- 都市部と自然豊かな田園の両面を合わせ持つ本市の特性、いわば農業が身近にある環境を活かした「食育」の取組を推進していくことが望まれます。

### 1 計画の基本理念

私たちが健全な食生活を実践していくことは、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことにつながります。

また、食に関わる人々、自然や社会への感謝の念や理解を深めることはSDGsの考え方にも通じ、持続可能な食料システムを構築することにもつながります。

本計画では、私たち市民の健全な食生活の実現と持続可能な社会の実現のために『食でつながるまち ながくて』を基本理念に掲げ、多くの市民の参加と協力の下で食育を推進していきます。

#### 《計画の基本理念》

## 食でつながるまち ながくて

食育の推進にあたっては、まずは私たち市民が食の大切さについて関心を持ち、食に関わる知識を身につけ、理解を深めていくことを基本として取組を展開します。

そして、食をテーマに市民同士や市民と関係団体、行政や事業者等がつながることで食育のまちづくりを推進する力としていきます。

本来、食べることは楽しいものであると考えます。みんなで食育のまちづくりを推進することにより食を通じて笑顔あふれるまちを目指します。

## 2 計画の基本目標

本計画では、前計画（第2次長久手市食育推進計画）が掲げた4つの基本目標を踏襲しつつ、食育推進に向けた取組を推進します。

### 基本目標1 食を通じて健康な体をつくる

医食同源という言葉があるように、体に良い食材をバランス良く食べることは、健康を維持していく上でとても大切なことです。

健全な食生活の実践、生活習慣病や肥満等の予防、食の安全に関する理解促進に向けた取組を推進し、健康な体づくりにつなげます。

### 基本目標2 食を通じて豊かな心を育む

家族や友人と食事をともにすることは、豊かな心を育むことにつながります。食事を楽しむ共食を推進します。

また、体験や交流の機会を充実し、食に関わる人々、自然や社会への感謝の気持ちを育て、食への理解を促すとともに、日本の食文化や地域の伝統食の継承に向けた取組を推進し、豊かな心の育成につなげます。

### 基本目標3 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

健全な食生活を支える基盤として、持続可能な環境は不可欠です。食品ごみの削減や身近なところでとれる農林水産物を積極的に消費・利用することなど、人や社会、環境に配慮した消費行動を促進する取組を推進し、環境に優しい暮らしづくりにつなげます。

### 基本目標4 食育を支える取組を推進する

1人でも多くの人々が食への理解を深め、食を通じた心身の健康づくり・持続可能な環境づくりに向けた実践行動へとつなげていくために、食育にかかる人材の育成、食育推進のための多様なネットワークづくり、啓発、情報提供など、市民1人ひとりの食育を支える取組を推進します。

### 3 計画の体系

#### 《計画の基本理念》

## 食でつながるまち ながくて

- ・市民が食の大切さに関心を持ち、理解を深めます。
- ・食をテーマに様々な主体がつながり、食育推進の力となります。
- ・食を通じて笑顔あふれるまちを目指します。

#### 《基本目標 1》 食を通じて 健康な体をつくる

##### 《基本方針》

- 1-1. ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践
- 1-2. 生活習慣病や肥満等の予防
- 1-3. 食の安全に関する理解促進

#### 《基本目標 2》 食を通じて 豊かな心を育む

##### 《基本方針》

- 2-1. 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進
- 2-2. 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進
- 2-3. 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

#### 《基本目標 3》 食を通じて環境に 優しい暮らしを築く

##### 《基本方針》

- 3-1. 食生活における環境への配慮
- 3-2. 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大

#### 《基本目標 4》 食育を支える 取組を推進する

##### 《基本方針》

- 4-1. 食育にかかる人材の育成と活動の充実
- 4-2. 食育推進のための連携・協働体制の構築
- 4-3. 食育推進のための啓発、情報提供

## 1 食を通じて健康な体をつくる

## 1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践

## ア. 妊産婦や乳幼児を持つ親の食育の推進

## 市民の行動目標

- 自分の生活習慣が子どもの生活習慣に反映されることを自覚し、子どもに規則正しい食習慣が身につくよう家庭での生活習慣を整える。

## 【市・関係機関の取組】

- 親子健康手帳交付や乳幼児健診といった機会を利用して、妊産婦の栄養や乳幼児の食事摂取についての正しい知識の啓発、情報提供を行います。
- パパママ教室・離乳食教室等を開催し、リーフレットの配布や講義等を通じて、食育の普及啓発を実施していきます。
- 未就園の乳幼児の食に対する相談を実施します。
- 調和のとれた食事、十分な睡眠といった基礎的な生活習慣の確立や生活リズムの向上のために「早寝・早起き・朝ごはん運動」の普及促進を図ります。
- 幼稚園・保育園の保護者の食育に向けた意識を高めるため、園だより等を活用した啓発活動を実施します。

《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～  
・子育てするパパママが集まれる「マタニティカフェ」を市のホームページで紹介する。  
市で認証店をつくる。

## イ. 乳幼児期の食育の推進（幼稚園・保育園における食育の推進）

## 市民の行動目標

- 発育段階に応じて、子どもたちが食への意欲を持つ。

## 【市・関係機関の取組】

- 保育園においては、子どもたちの食への意欲を高めるために、各年齢に適した年間食育計画を策定し、計画に基づく食育を実施していきます。

## ウ. 小中学生の食育の推進（学校・児童館等における食育の推進）

### 市民の行動目標

- 食と健康に関する知識や大切さについて学び、学んだことを自分自身の食生活に活かしていく。

### 【市・関係機関の取組】

- 授業や給食の時間を活用して、担任あるいは栄養教諭等による食に関する指導を行います。
- 給食委員による毎月の給食目標の呼びかけ、校内放送による献立解説（地場産物、栄養、行事食等）などの取組を実施します。
- 保健だよりを通じて、食育に関する児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行います。
- 家庭用献立表の配布、学校給食だよりの発行により、食に関する情報発信を行います。
- 児童館においては、食への関心を深めるために小学生を対象とした調理体験を開催します。
- 学校と平成こども塾とが連携し、屋外でのカレーライスづくり、郷土料理など食育に関する体験型のプログラムを実施します。

## エ. 若い世代を中心とした食育の推進（青年期及び子育て世代の食育の推進）

### 市民の行動目標

- 食に関する知識と理解を深め、望ましい食生活を自ら判断し実践していく。
- 子どもにも規則正しい食習慣が身につくよう、家庭での生活習慣を整える。

### 【市・関係機関の取組】

- ホームページ・広報でのPR、健診でのリーフレットの配布などにより、食生活の大切さを啓発していきます。
- 小中学生や若者世代の朝食の欠食を減らすことをねらいとして、朝食づくり講座、朝食レシピの公開を実施します。
- 講演会、情報発信、料理教室など、大学・学生等と連携しつつ、若い世代をターゲットとした新たな食育の場や機会を創出（検討）していきます。

### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・若者は珍しいものに注目する。特産物を使用したアレンジレシピを発信してみても。
- ・地元の食材を活用したキッチンカーを大学へ出店する。

## オ. 働く世代に対する食育の推進

### 市民の行動目標

- 食に関する知識と理解を深め、望ましい食生活を自ら判断し実践していく。

### 【市・関係機関の取組】

- 働く世代が健康に働くための食生活を実践できるよう、啓発活動を行います。

《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～  
・「食」に関する講演会。保護者をターゲットに開催。

## カ. 高齢期における食育の推進

### 市民の行動目標

- 自分自身の健康状態に合わせた適切な食生活を理解し、実践していく。

### 【市・関係機関の取組】

- NPO等が実施するサロンなどと連携・協力して共食の場づくりを支援します。
- 事業者等と協力しながら、高齢者が集まる機会や場を活用して、食と栄養に関する豆知識など、高齢者が食育について学ぶ機会を提供していきます。
- 自ら料理をつくって楽しむ高齢者を増やすため、活動団体等と協力して高齢者向けの料理教室などの活動を普及・支援していきます。
- 料理方法や食材に関する豆知識など、高齢者の知恵やノウハウを次世代に伝承していくための情報発信やイベント開催に取り組みます。
- 高齢者向けの食育の機会を増やしていけるよう、民間の医療機関・介護事業所などにも協力を呼びかけます。

《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～  
・孤食の問題についてしっかりと情報発信していく。本人は現在の状況を問題だと思っていない。食とフレイル<sup>※3</sup>予防。  
・医療施設や福祉施設など、高齢者がいるところで情報を伝える。  
・子ども食堂のような共食の機会を提供。高齢者も含めて運営していく。

※3：フレイル……要介護状態に至る前段階として位置づけられるが、身体的脆弱性のみならず、精神・心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する。

## 1-2 生活習慣病や肥満等の予防

### ア. 子どもの肥満予防等の推進

#### 市民の行動目標

- 子どもの時期から適切な食生活や運動習慣を身につけ、肥満を予防する。

#### 【市・関係機関の取組】

- リズム遊びや戸外遊びなどを通じて、健康的な体の成長を促す保育を実施します。
- 学校関係者等と連携し、学校医による学校保健活動を通じて肥満の予防や肥満傾向の児童生徒に対する指導を行います。
- 学校関係者等と連携し、生活習慣病や肥満等に関する知識の普及啓発を進めます。

### イ. 健康寿命の延伸につながる食育の推進

#### 市民の行動目標

- 食生活や運動など生活習慣を見直し、生活習慣病や肥満を予防する。

#### 【市・関係機関の取組】

- 生活習慣病を予防するため、若年期からのメタボリックシンドロームや若い女性の過度なダイエットなどのリスクについて正しい知識の普及啓発を行います。
- 生活習慣病の予防対策を目的として、39歳以下健診の受診促進を図ります。
- 栄養と運動の両面をとらえた食生活の改善、肥満防止対策を推進していくため、健康講座や健康相談の充実を図ります。

## 1-3 食の安全に関する理解促進

### ア. 食の安全に関する情報提供と啓発

#### 市民の行動目標

- 食の安全性に関心を持ち、正しい知識を身につけ、自らの判断で食を選択する。

#### 【市・関係機関の取組】

- 食品の安全性や栄養成分、食物アレルギーなどの正しい情報を広報・リーフレット・ホームページなどを通じて提供していきます。
- 食を提供する民間事業者にも協力を呼びかけ、分かりやすい情報提供を促します。
- 乳幼児健診の機会などをとらえて、保護者に対して食物アレルギーに対する正しい理解が進むよう、情報提供を進めます。



## 2 食を通じて豊かな心を育む

### 2-1 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

#### ア. 食を楽しむための環境整備

##### 市民の行動目標

- 家族や友人等と一緒に食事をとることのできる時間を確保する。
- 食事の献立を考える、買い物をするなど、家族や友人等と食に関する機会を持つよう心掛ける。

##### [市・関係機関の取組]

- 子どもの孤食は、コミュニケーション不足や栄養の偏りなどの原因となったり、高齢者の孤食は、低栄養やうつ病などの原因となったりするといわれています。孤食が引き起こす悪影響について情報提供するとともに、家族や友人、地域の人とともに食事をする共食の大切さを啓発します。
- 「新しい生活様式」に合わせて、在宅時間を活用して食を楽しむための情報提供を行います。
- ワーク・ライフ・バランスを進めることで、家族や友人等と食事を楽しむ共食の啓発につなげます。

##### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ 孤食の問題についてしっかりと情報発信していく。本人は現在の状況を問題だと思っていない。食とフレイル予防。
- ・ 朝食をしっかり食べるとポイントがたまるとか。ポイントに特典を付与する。

#### イ. 地域における共食の推進

##### 市民の行動目標

- 普段から家族や友人等と一緒に食べる共食を心掛ける。
- 地域や職場などでの共食の機会があれば、楽しく参加する。

##### [市・関係機関の取組]

- 事業者やNPO等と連携・協力するなどして、高齢者同士や地域の子どもたちとの共食の場づくりを支援します。

##### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ 子ども食堂のような共食の機会を提供。高齢者も含めて運営していく。

## 2-2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

### ア. 農業体験の促進

#### 市民の行動目標

- 農作物の栽培や収穫体験、生産者との交流を通して、農作物生産についての理解を深める。

#### [市・関係機関の取組]

- 保育園では、地元農家の協力を得ながら、食育計画に基づき米づくり・野菜づくり、芋掘り体験等を実施します。こうした体験を通じて、子どもの食べ物を大切にする心を育てていきます。
- 小中学校においては、農体験の一環として、学校農園を活用した農作物の栽培や調理実習などを実施していきます。
- 平成こども塾では、市民団体と協力して、土づくりから種まき・苗植え、収穫、調理までの一貫した農業体験の場を提供していきます。

### イ. 食に関する体験・交流機会の提供

#### 市民の行動目標

- 食の生産から流通、加工・調理方法など、食に関わる様々な体験や交流を通じて、食に対する感謝の気持ちや理解を深める。

#### [市・関係機関の取組]

- あぐりん村において、生産者と消費者の交流を深めるイベントを開催します。
- 料理教室や料理コンテストなどのイベントを開催し、食に関する知識や調理技術の習得につながる機会を提供していきます。

#### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ 生産者の方と直接交流してみたい。
- ・ 料理教室で、生産者の方や地元高齢者の方の料理方法（レシピ）などを教えてもらう。
- ・ 地元野菜を使った料理コンテストを開催して、レシピを SNS で発信する。

## 2-3 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

### ア. 食事作法の習得

#### 市民の行動目標

- 食事の挨拶、箸使いなどの食事の作法について学び、身につける。

#### [市・関係機関の取組]

- 保育園においては、「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶、箸やスプーンの使い方などの食事マナーが習慣として身につくように指導を行います。
- 家庭においても、基本的な食事作法を習得していけるように、保護者に向けた啓発、情報提供を行います。

### イ. 日本型食生活<sup>\*4</sup>の推進、地域の食文化の継承

#### 市民の行動目標

- 日本型食生活についての理解を深め、実践する。
- 郷土料理など地域の食文化について学習し、次世代に伝えていく。

#### [市・関係機関の取組]

- 日本型食生活のメリットについて理解を促すため、啓発、情報発信を行います。
- 市の伝統的な食文化や伝統野菜についてのPRを行うとともに、実際に調理し食する機会や栽培する機会を提供します。
- 学校給食において、地元農産物の利用や郷土料理を献立として提供するなどして、子どもたちに地元料理や伝統料理を知る機会を提供します。

#### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ 高齢者が持っている食に関する知識を継承していく。一緒につくって食べるイベント。
- ・ 伝統食・郷土料理について、レシピ付き材料セットを販売しては。何回もつくろうと思える。
- ・ 共生ステーションで「つくって食べる会」。得意な人が講師をして…。

※4：日本型食生活……ごはんを中心に、魚、肉、牛乳・乳製品、野菜、海藻、豆類、果物、茶など多様な副食などを組み合わせた我が国独自の食生活のこと。

### 3 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

#### 3-1 食生活における環境への配慮

##### ア. 無駄や廃棄の少ない食事づくりの推進

###### 市民の行動目標

- 適量の食事づくりを心掛け、食べ残しや食品の廃棄をなくす。

###### 【市・関係機関の取組】

- エコクッキング（環境に優しい料理・料理方法）を普及するための啓発活動を行うなど、環境と食との関わりについて学習する機会を提供します。
- 食料の適量購入、食べ残しをしないなどの無駄や廃棄の少ない食事づくりを普及していくための啓発、情報提供を行います。

##### イ. 食品ごみ削減のための仕組みづくり

###### 市民の行動目標

- 食品ロス（フードロス）について考え、削減のための行動を実践する。

###### 【市・関係機関の取組】

- あぐりん村では、残菜の堆肥化を進め、食品廃棄物の減量に取り組みます。
- 家庭から出た生ごみをコンポストで堆肥化し、循環利用できるよう支援します。
- 家庭で余剰になった食品をフードドライブ<sup>※5</sup>で有効活用していくなど、活動を実施している市民団体等を支援します。
- フードバンク<sup>※6</sup>や地元の事業所等で規格外の野菜の有効活用を検討するなど、生産者、活動団体等との情報交換の場を提供していきます。

###### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ 生ごみコンポストで堆肥づくり。子ども畑でミニトマト収穫。
- ・ フードロスについて考える機会を積極的に持つ。
- ・ 規格外の野菜の流通の仕組みをつくる。子ども食堂に持って行くとか。

※5：フードドライブ……主に家庭で余っている食品を持ち寄り集め、地域の福祉団体や、フードバンク等へ寄付する活動。

※6：フードバンク……主に企業や農家から発生する、まだ十分食べられるのに余っている食品を寄贈してもらい、食べ物を必要としている人のもとへ届ける活動及び団体のこと。賞味期限が近い食品や、規格外野菜・規格外食材などが集まる。

## 3-2 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大

### ア. 直売所における生産者と消費者の交流促進

#### 市民の行動目標

- 生産者との交流を通して、地域の農業や農作物についての理解を深める。

#### 【市・関係機関の取組】

- 農業が地域に果たす多面的な役割についてPRしつつ、地域で生産される農産物の利用促進に向けた啓発、情報発信を行います。
- 消費者に地域の生産者、農産物についての理解をより深めてもらうために、消費者と生産者との交流の機会を提供していきます。
- こうした交流を進める中から、消費者と生産者の想いに添った商品、サービスの開発・提供を促していきます。

#### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・生産者の方と直接交流してみたい。
- ・生産者ならではの食べ方、レシピ。教えてもらえると良い。

### イ. 地産地消・旬産旬消の推奨

#### 市民の行動目標

- 地元で生産されたものを購入する地産地消に心掛ける。

#### 【市・関係機関の取組】

- 地元で生産された農産物を地元で消費する地産地消の取組の意義・メリットについて情報発信していきます。また、旬の農産物やその料理方法などについても学習できるように情報発信を工夫していきます。
- 学校給食などでの市内産・県内産の農産物の利用を進めます。
- 生産者団体等と協力しつつ、市内産農産物の安定供給に向けた体制づくりを支援します。

#### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・出かけられない人へのフォローとして、出張販売する。クラウドファンディングで資金を調達。

## ウ. 農との関わりの場づくり

### 市民の行動目標

- 地元農業への関心を持ち、地元の農業を応援する。自ら農作物を育ててみる。

### 【市・関係機関の取組】

- あぐりん村等の農産物直売所の機能の充実を図ります。
- 長久手ふれあい農園たがやっせや長久手農楽校など、趣味的に農と関わりたい人から本格的に農業に取り組んでみたいと考える方まで、関心のレベルに応じた農との関わりの場を提供します。
- 農家や地域が実施する農業体験イベントなどの開催を支援します。

### 《市民ワークショップではこのような意見が出ました》 ～食育推進のアイデア～

- ・ レシピ付き材料セットの販売。共働き世代の味方になる。子どもへの食育にもつながる。また、直売所に出かける動機になる。
- ・ 地元の野菜のコインロッカー販売を考えてみる。大学に設置すれば、学生の食の改善につながる。企業・事業所にもあるといい。
- ・ あぐりん村まで車で行けない人向けに、出張販売を考えてみる。材料セットを移動販売で売る。
- ・ 農業体験の場・機会はたくさんあるが、知らないことが多い。
- ・ 地域で農作業体験のイベントを企画する。
- ・ 農家さんと情報共有して、農業収穫体験するイベントを行う。

## 4 食育を支える取組を推進する

### 4-1 食育にかかる人材の育成と活動の充実

#### ア. 市民活動への支援

##### 【市・関係機関の取組】

- 子ども食堂・高齢者食堂や生産者との交流イベントなど、市民が主体となって取り組む活動が活性化されるように、活動を支援する人材（ボランティア等）の育成、環境整備、情報の共有化を支援します。
- 地域の人と一緒に食について学び、健康づくりのボランティアとして活躍していただく食と健康を考える会の会員を養成し、活動を支援します。

### 4-2 食育推進のための連携・協働体制の構築

#### ア. 食育に取り組む関係者との連携の推進

##### 【市・関係機関の取組】

- 食育に関わる保育園、学校、家庭、行政、企業・事業者、大学、その他関係機関・団体等の多様な主体の連携を図るため、長久手食育推進支援会議を開催し、情報交換や意見調整を行います。
- 保育園や学校等を中心に行われる取組にあたっては、栄養教諭、管理栄養士、学校栄養職員、地域のボランティア等の連携を図り推進します。

### 4-3 食育推進のための啓発、情報提供

#### ア. 食育月間における啓発促進

##### 【市・関係機関の取組】

- 食育月間と定める6月に広報・リーフレット・ホームページ・ケーブルテレビ等を通じた広報活動や啓発活動を行います。
- あわせて、講演会や収穫祭等のイベントを開催し、啓発活動の充実を図ります。
- 「愛知を食べる学校給食の日」と連動し、給食センターの施設見学や学校給食の試食会を開催し、食育の機会の提供に努めます。

#### イ. 食育に関する情報発信の充実

##### 【市・関係機関の取組】

- 本計画の進捗状況を把握するための一環として、食育に関するアンケート調査を定期的に実施します。
- 食育ガイド・食育バランスガイド、日本型食生活のススメなど、食育の啓発に関わ

る基本的な情報や、食育に関する事業や施策、イベントの情報など、市民が必要な情報を容易に入手することができるよう、広報・ホームページ・リーフレット・ケーブルテレビ等により積極的に情報提供を進めます。



## 1 計画の推進体制

**(1) 市民と行政の連携・協働による計画の推進**

食育は行政のみが主体となって推進できる取組は限られており、保育園、学校、家庭、行政、企業・事業者、大学、その他関係機関・団体等の多様な主体が、その事業や取組毎に連携・協働して計画を推進していくこととなります。

**(2) 庁内連携による計画の推進**

上述のとおり、食育の推進にあたっては多様な主体の連携・協働が必要となることから、庁内の複数の部局との関係が生じることとなります。本計画に記した事業や施策を実際に実施していくに際しては、各々の部局で実施している事業や施策との調整を図りながら推進していくこととします。

こうした庁内の連絡・調整にあたって、長久手市食育推進部会(事務局：みどりの推進課)がその中心的な役割を担うものとします。

**(3) 長久手食育推進支援会議による計画の推進**

本計画の進捗状況の把握及び評価に関しては、学識経験者、食育の推進に関する団体、専門家、市民（公募）などから構成される長久手食育推進支援会議において毎年度計画の進捗状況を報告し、意見・評価をいただきます。

その意見・評価を毎年の事業や施策の推進に反映させていくこととします。

**(4) 計画の見直し**

本計画は、国の第4次食育推進基本計画（2021～2025）、愛知県のあいち食育いきいきプラン 2025 が策定されたことを受けて、現時点での社会経済情勢に対応して策定したものです。

今後、食育をめぐる諸情勢が大きく変化することがあった場合や、国や県の計画に大幅な変更が生じた場合には柔軟に計画を見直していくことが必要です。

このため、計画期間終了前であっても見直しの必要性や時期等を適時適切に検討していくこととします。



## 2 数値目標

食育の数値目標を以下のとおりとします。

### 1 食を通じて健康な体をつくる

項目	指標	現状値 (2020)	目標値 (2026)
食育についての関心	・食育に関心のある市民の割合	(全体) 92.8%	(全体) 95%以上
朝食を毎日食べる習慣	・毎日朝食を食べる児童の割合	(児童) 91.0%	(児童) 98%以上
	・毎日朝食を食べる生徒の割合	(生徒) 82.1%	(生徒) 98%以上
	・毎日朝食を食べる市民の割合 (15歳～39歳)	(15歳～39歳) 80.6%	91%以上
	・毎日朝食を食べる市民の割合 (40歳～59歳)	(40歳～59歳) 88.5%	91%以上
自分の適正体重の認識 と体重コントロールの 実践	・自分の適正体重を認識し、体重 コントロールを実践している 市民の割合	(市民) 39.0% (保護者) 35.1% (全体) 36.4%	(全体) 40%以上
朝食で野菜・海藻を食 べる習慣	・朝食で野菜・海藻を食べている 小中学生の割合 (児童・生徒)	(児童) 58.3% (生徒) 56.0%	(児童) 80%以上 (生徒) 80%以上

### 2 食を通じて豊かな心を育む

項目	指標	現状値 (2020)	目標値 (2026)
家族や友人等と一緒に 食事をする	・1日最低1食、家族や友人と一 緒に食事をする市民の割合	(市民) 73.1% (保護者) 97.2% (全体) 89.3%	(全体) 90%以上
農作業の体験	・農作業体験をしたことがある 小中学生の割合 (児童・生徒)	(児童) 88.4% (生徒) 83.5%	(児童) 90%以上 (生徒) 90%以上
伝統的な野菜や郷土料 理の認知度	・長久手市の伝統的な野菜 (真 菜) や郷土料理 (おこしもの) を知っている市民の割合	(市民) 40.3% (保護者) 62.9% (全体) 55.5%	(全体) 60%以上

### 3 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

項目	指標	現状値 (2020)	目標値 (2026)
地元農産物の購入 (地 産地消)	・愛知県内で生産された農作物 を購入するようにしている市 民の割合	(市民) 28.1% (保護者) 34.0% (全体) 32.1%	(全体) 35%以上
環境に優しい暮らし	・無駄や廃棄の少ない食事づく りを積極的に行っている市民 の割合	(市民) 17.3% (保護者) 18.8% (全体) 18.3%	(全体) 50%以上

### 4 食育を支える取組を推進する

項目	指標	現状値 (2020)	目標値 (2026)
食育の推進に関わるボ ランティア	・食育の推進に関わるボランテ ィア数	201人	350人



# 資料編

## 1 計画策定の経過

年月日	内容
2020（令和2）年	
11月13日～12月7日	市民アンケート調査の実施 《対象》 満19歳以上25歳未満および満50歳以上の市民 2,000人
11月16日～12月7日	保護者アンケート調査の実施 《対象》 長久手市内の保育園、小学校5年生、中学校2年生の 保護者 2,529人 児童・生徒アンケート調査の実施 《対象》 長久手市内の小学校5年生 744人 長久手市内の中学校2年生 574人
2021（令和3）年	
7月10日	第1回長久手の食育を考えるワークショップの開催 《テーマ》 現状と課題を整理してみよう！ 《参加者》 19名
8月28日	第2回長久手の食育を考えるワークショップの開催 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のためオンライン開催 《テーマ》 市民&行政が行う取り組みを考えてみよう！ 《参加者》 オンライン参加6名、書面参加8名 計14名
11月6日	第3回長久手の食育を考えるワークショップの開催 《テーマ》 計画（案）をみてみよう！ 《参加者》 13名
12月6日	長久手市食育推進部会（庁内会議） 《議題》 第2次長久手市食育推進計画の取組の振り返り 長久手の食育を考えるワークショップ（開催結果） 第3次長久手市食育推進計画の骨子（計画の体系案）
12月22日	第1回長久手食育推進支援会議 《議題》 第2次長久手市食育推進計画の取組の振り返り 長久手の食育を考えるワークショップ（開催結果） 第3次長久手市食育推進計画素案
2022（令和4）年	
1月25日～2月24日	パブリックコメントの実施
3月22日	第2回長久手食育推進支援会議 《議題》 パブリックコメントの実施結果 令和4年度以降の支援会議の取組 他

## 2 長久手の食育を考えるワークショップ News Letter

2021（令和3）年7月～11月にかけて開催した『長久手の食育を考えるワークショップ』では、現状と課題、市民&行政が行う取組、計画（案）について、市民のみなさんを交え意見交換を行いました。

各回（計3回）のワークショップの内容はニュースレターとして取りまとめ、情報共有を行いました。

第1回

# 第3次長久手市食育推進計画策定に向けて 長久手の食育を考える ワークショップ 2021.07.10.Sat

News Letter



## “若者の食事づくりと高齢者の孤食”をテーマに話し合いを始めました！

長久手市では、「長久手市食育推進計画」の改定にあたり、市民のみなさんとともに食育推進のための取組を考える場として、『長久手の食育を考えるワークショップ』を開催しています。

7月10日に第1回ワークショップを開催しました。その結果のあらましを紹介します。

世代を超えて新たなつながりをデザインする場として、6月に開館したばかりのリニモテラス公益施設が会場でした。自然木を内装に用いた“癒やし系”の空間で、対角のコーナーでは多文化共生に関わるイベントが同時開催されていました。

参加者は19名で4つのテーブルに分かれワークショップは始まりました。冒頭、市よりワークショップの開催趣旨を説明した後、Step1では、参加者の皆さんから“食”をテーマに自己紹介をいただきました。次にStep2では、昨年度実施した食育に関するアンケートの調査結果を参考としつつ、現在の長久手市の食育の特性（良いところ、悪いところ）について意見交換しました。

最後にStep3では、今回のワークショップでのテーマである“若者の食事づくりと高齢者の孤食”について、その要因や今後の影響などについて意見交換しました。



### 第1回 ワークショップ

日時：令和3年7月10日（土） 10:00～12:00  
場所：リニモテラス公共施設 大廊下ほか

#### 【プログラム】

- 開会** あいさつ・趣旨説明
- Step. 1 あなたにとっての食とは？**
- ・“食”をテーマに自己紹介
- Step. 2 アンケートの結果から、分かったこと、気づいたこと！**
- ・長久手市の食育の特性（良いところ、悪いところ）をみんなで話し合い
- Step. 3 テーマ『若者の食事づくり&高齢者の孤食』について考えてみよう！**
- ・テーマに沿って意見交換

**閉会**



全体で3回の  
ワークショップを  
予定しています。

## 挨拶・趣旨説明

長久手市では、市民一人ひとりが食の大切さを理解して主体的に食育に取り組むための指針として、平成 19 年に食育推進計画を策定しました。現在の第 2 次食育推進計画は、「みんなで楽しく食べよう長久手の食」を基本理念とし、それを達成するための 4 つの目標をもとに各取組が行われています。

しかし、前回の改定から約 5 年が経過し、本市の食を取り巻く環境や食育に対する市民の関心・意識も変化しているということで、今年度に計画を見直すことになりました。

ワークショップでは、全 3 回の開催を通して、参加者の皆さんの思いや意見等をいただき、次期計画へ活かしていくことを目的としています。



## Step 1 あなたにとっての食とは？（自己紹介）

スタッフを含め参加者全員が、『私にとっての“食”』について一言添えて、自己紹介を行いました。発言の内容は十人十色で、食に対する皆さんのこだわり、思いをうかがい知ることができました。



### Aグループ

コミュニケーション

みんなで食べるとより美味しい

できるだけ、家族が揃って食事する事  
(一緒に食事をする人が家族になる…)

ゆっくり楽しんで、

できれば家族そろって食事をする  
毎日 生のフルーツを何かしら食べる

早食いの改善

みんなで ゆっくり よく噛んで食べたい！

### Cグループ

朝食欠食

自分で食べる物は、なるべく自分で作る

朝食は抜かない

消費者の選択、生産者の方とのつながり応援

用意されたものを残さないで食べる

朝ごはんは毎日食べます

自分で食事をつくる!!

### 進行スタッフ

なるべく『国産』買ってます

なるべく 50 年前から存在する食材・食物を食べる

### Bグループ

帰宅後、30 分以内で 「いただきます！」  
楽しく食べる

自分が作っている野菜には化学農薬は使用しない  
隣がコンビニで、

食べたいな~と思うものに手がのびる  
食材の買物は、必ず子どもを連れて行くこと

朝・昼食をとらない 酒飲みすぎ  
食事を楽しむ

旬のもの 楽しく食べる

### Dグループ

体に安心、安全な食材

お酢を摂る

よく噛んで食べること

毎朝、ヨーグルトを食べること

なるべくたんぱく質をたくさん取る様に、  
意識するようにしている

できるだけ国産のものを選ぶ。  
なかでも近い場所で採れたもの、作ったもの



## Step2 アンケートの結果から分かったこと、気づいたこと！



昨年度（令和2年度）、長久手市では食育に関するアンケート（市民、児童・生徒、保護者の3種）を実施しました。事務局スタッフよりその結果概要を報告しました。参加者の皆さんには、アンケートの報告を聞きながら、事前に配布した「長久手市の食育・良い点カード」「同・悪い点カード」に意見を書き上げていただきました。

その後はグループワークです。グループ内で意見交換して、長久手市の食育の特性（良いところ、悪いところ）を考えました。

### 各グループで出た意見（抜粋）

#### Aグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
“農業体験している”割合が高い 子どもたちが農作業に触れる機会があるのは良いと思う	学生や若者（10・20代）の欠食 栄養バランスも良くない、身体のことを考えた食事を
食育に関心のある人が多いと思う 「食育」という言葉の認知度、保護者で90%超。全国比較？	中高齢者の孤食「いつも一人で食べている」 60歳以上で20%。単身世帯、仲間がいない
廃棄や食べ残しが少ない！ 食べ残ししない70～80%（食べ物大切に意識が高い）	中学生の運動不足 子どもたちの生活環境・生活様式が大きく変化している

#### Bグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
“場”がある。伝統野菜の認知度高い あぐりん村がある、農楽校がある、平成こども塾がある	欠食 若者も保護者も 身体が作られる時の食事は大事。保護者の欠食の背景は？
若者が調理に関心 自分で調理したい若者が増えている。調理する機会を増やす	孤食 中高齢者の孤食が増えていること
給食が良い、充実している 具材が大きい、生産者名も、給食が充実している	農業体験 二極化？ 50～60代に農業体験が少ないこと驚き

#### Cグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
農業ができる環境にある 若い世代で農業体験ができる環境にある。農業体験者多い	体験しにくい？ 実践までつなげることが難しい
緑が多い環境 自然豊かで田畑もまだ残っていて、地産地消がしやすい	中高年の方の食事バランスガイドの認知度が低い 知っていても実行が難しい？ 栄養バランスの考え方
あぐりん村 あぐりん村で地域の野菜が買える（出荷のハードル高い？）	地元野菜をもっと買いやすく 地元野菜を買いやすい場所がほしい

#### Dグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
農作業体験 郷土料理 子ども知っている 保育園・小中学校の取組が「食育」の基となっている	世代間ギャップ 高齢者の方が食事バランスへの意識が薄れている
女性の方が意識が高い 女性の方が食に対する意識が高いように感じる	SNSで間違った知識 間違った食事を信じてしまう。中学生のダイエットはやめて
自分で調理したい 10・20歳代が集える、調理する機会を増やせるはず	野菜不足 分かっているけどできないことはたくさんあります。

### Step3 テーマ『若者の食事づくり&高齢者の孤食』について考えてみよう？

最後のグループワークは、市が設定したテーマについての意見交換でした。最初に市からテーマ『若者の食事づくり&高齢者の孤食』をテーマとした理由を説明しました。

#### 《テーマ設定の理由》

- 若者の中には「自分で調理する機会を増やしたい」と思っている人が3割います。
  - ：日本一若い街といわれるように住民の平均年齢が非常に若いという特徴、市内に大学が4つあり学生の街でもあるという特徴を持つ長久手市にとって、若い世代の活力や発想は、市が抱える課題の解決や、強みをより強くするための重要な材料になるとの考えからテーマの一つとしました。
- 高齢者は食事を「一人で食べている」が2割以上となっています。
  - ：高齢者の孤食の問題は全国共通の課題と思われませんが、長久手市でも必ず将来的に抱える問題ですので、ぜひこの機会に孤食問題について考えてみたいと思いテーマとしました。

残された時間で、『若者の食事づくり』&『高齢者の孤食』について、背景・要因、影響などをグループで話し合いました。

#### 各グループで出た意見（抜粋）

若者の食事づくり (なぜ機会を増やしたいとってる？ その理由は？)	高齢者の孤食 (高齢者の孤食が増えることをどう思う？ どのような影響が…?)
簡単につくれる SNS、YouTube等の影響、料理チャンネル	負のスパイラル 人と食べない→楽しくない→おいしくない→人生つまらない
かっこいい、もてるから、 おうちデートが増えた、男性も食事づくりできないと	健康に悪影響 食を楽しめない→低栄養、フレイル、認知症の増加にも
「お母さん食堂」にNo 「母が台所に立つ」という考え方が古くなってきた	ますます増える これからどんどん増えていくと思う、独身者が増えている
お金がかかる・お金がない 外食・中食はお金がかかる、外食するお金がない	食べてくれる人がいるから工夫してつくる 人に食べてもらう喜びがなくなる 粗食増加の可能性
一人暮らしが増えた 若者の一人暮らし多い、一人暮らしが増える世代	手間を掛けなくなる 不規則になる、集まって食べないと、コロナが…
自立の一步 自立したいとの気持ちの表れ	中食が孤立を助長 人とコミュニケーションをとる機会が減る
身体にいいものをつくる、外食に魅力がない おいしいもの、身体にいいものを望む、健康のため	社会とのつながり 希薄化→孤独死 社会の中のコミュニティに自分がいる意識が薄れていく
材料が手に入る 生産者が身近にいる、食材の店も多い	都市化＝孤食化 都市化とは孤食化なので、抗いようがない
子ども・若者の意識の変化 共働き世代の増加、子が親を助けたい、食への意識の高まり	共食の場の提供を 地域での社会活動に関わってもらうような取組があれば

### 次回に向けて

次回のワークショップは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催日時を8月28日(土)10:00~12:00に延期し、紙面による意見募集とオンラインによる意見交換に変更いたします。前回 Step 3 で出された意見を参考としつつ、『若者の食事づくり&高齢者の孤食』をテーマに、市民と行政が行う取組、行動などのアイデアを出し合うワークショップを予定しています。

長久手の食育を考えるワークショップ (事務局：長久手市建設部 みどりの推進課)  
Tel : 0561-63-1111 (代表) Mail : midori@nagakute.aichi.jp 担当：都築、吉田

## 第2回

第3次長久手市食育推進計画策定に向けて

# 長久手の食育を考える ワークショップ (オンライン)

## News Letter

2021.08.28.Sat



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、8月25日、愛知県にも「非常事態宣言」が発出されました。本来はみなさんと顔を合わせて実施したかったのですが、第2回ワークショップはやむなくオンラインでの開催とさせていただきました。

オンライン参加者は6名、書面での参加が8名となりました。オンライン参加者の中には、この日のためにPCを購入してオンライン会議に初挑戦していただいた方もいらっしゃいました。ありがとうございました。

まずは前回のふり返しをした後、Step 1では、事前に考えてきた市民&行政が行う食育の取組み、行動のアイデアをみんなで発表しました。次に、Step 2・Step 3では、出てきた取組み・アイデアを踏まえて意見交換を重ねました。

最後に Step 4では、長久手の食育推進計画を考えるにあたって『最も大切にすべきキーワード』は何かを考えていただき、本日の感想と併せて一言いただきました。



### 第2回 ワークショップ

日時：令和3年8月28日(土) 10:00~12:00  
場所：オンライン

#### 【プログラム】

- 開会** はじめに 前回のふり返し
- Step. 1** **市民&行政が行う食育の取組を考えてみよう!**
- ・参加者から取組、アイデアを発表
- Step. 2** **みんなでアイデアを練り上げよう!**
- Step. 3** **一押し事業を考えてみよう!**
- ・みんなで意見交換
- Step. 4** **さいごに一言**
- ・長久手の食育『最も大切にすべきキーワード』とは & 今日の感想
- 閉会**



急きょ、オンラインでの開催となり、心配しましたが、ご参加のみなさんのご協力により、思っていた以上のワークショップができました。次回もよろしくお願い致します。  
(みどりの推進課)

## Step.1 市民&行政が行う食育の取組を考えてみよう!

参加者のみなさんから、事前に考えていただいた取り組み・アイデアを発表いただきました。

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(1)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・1人が生きやすい? コミュニティ不足の解消。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・市場の開催 ※学生が多いのでお店を出す。  
↓  
(地域・近隣のお店の協力)・高齢者もお店を出す。

(Name : S・Y)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(2)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・人と人のつながりのある食事づくりの場。  
・孤食の現状を発信。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・食事づくりで人が集える。

(Name : Y・N)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(5)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・繋がりを取り戻す (独りにならない)。  
・体験を共有する、技術の伝承。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・みんなの食堂。  
参加者が食材を持ち寄って (全員が助け合う)。

(Name : F・M)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(6)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・食と健康に興味をもつ。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・若者と高齢者による長久手の伝統食。

(Name : K・M)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(11)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・高齢者・学生の「食」の時間がバラバラ
- ・需要と供給のアンバランス
- ・学生がアピールできる場が限られている (SNS、YouTube 等)。高齢者だけでなく、社会との直接的なつながりが薄い。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・出かけていくのが無理でない人は、「場」を作ること。そこに材料を持ち寄り調理して食べることができるならいいの。中心となる人が必要。場、使用料の問題はある。
- ・社協や民政委員が中心となり、高齢者とのかかわりを作り輪を広げていく、同じ地域の人とのつながりを作り、一緒に食べることを楽しめる関係、環境を作る。
- ・大学に呼びかけ、長期の休みを利用して、高齢者との交流を計画してみてもどうか、社会福祉関係の学部も多くあるので、関係のある学生もいるのかも。

(Name : T・H)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(9)

#### ①テーマについての問題・課題

- ・学生さんが野菜を食べたいと思って、値段が高かったり、買い物に行く時間がないとのこと。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・野菜のコインロッカー販売はどうか? (期間限定のおためしから)
- ・ためしに、図書館などに置いてあるコインロッカーに200円くらい入れたら野菜の詰め合わせが手に入るようにするのはどうでしょう? それを大学に置いて、あぐりん村の生産者に野菜の詰め合わせを作ってもらおうのです。学生の利用の様子次第で続けるかどうか検討するのも良いかと思えます。

(Name : H・I)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(12)

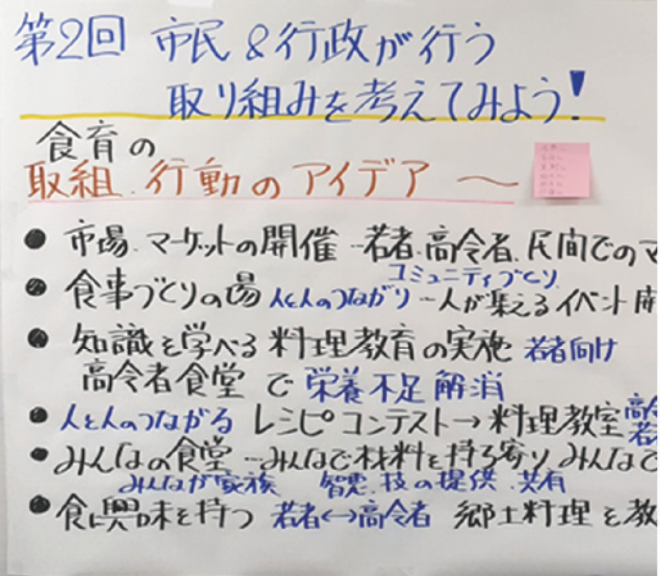
#### ①テーマについての問題・課題

- ・そもそも孤食や現在の食生活を問題視している人が少ない。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・YouTube やブログなどで、地域の食材を使った料理動画を出してみる。

(Name : N・M)



### ながくての食育 取組・行動のアイデア(3)

《若者》

#### ①テーマについての問題・課題

《若者》・食事に関する知識。

《高齢者》・栄養不足の可能性。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

《若者》・料理教室の場の提供。

《高齢者》・高齢者サロンのような高齢者食堂をつくる。

(Name : I・R)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(7)

#### ①テーマについての問題・課題

・若者の食事力を高める。

・高齢者の共食の機会をつくる・増やす。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・『食べ活プロジェクト』 簡単、おいしい、安い、できる、楽しい♡をキーワードに、若者と食生活改善推進員さんなど、地域の方と一緒にレシピを考案し試食。

・作った食事を子ども食堂で提供したり、一人暮らし高齢者に宅配したりして、“食”を通じて、子ども・若者・地域の人々・高齢者をつなぐ。

(Name : F・J)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(10)

#### ①テーマについての問題・課題

・老人のために若者が食事を作り、一緒に食べる。これで一石二鳥なんだけれど、それをどうやって実現するかが問題であり、今後の課題となる。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・老人ホームで、若者がピザパーティとか、たこ焼きパーティをする。(孤食の対応になっていなくてすみません)。

(Name : H・E)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(4)

#### ①テーマについての問題・課題

・人のつながりを大切にしたい。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・レシピコンテストの開催。

・料理の先生、若者に教える。

(Name : S・M)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(8)

#### ①テーマについての問題・課題

・高齢者の孤食は、食事の偏りにより身体面に悪影響を及ぼす。人とのつながりの希薄化で精神的な悪影響とも密接に関係している。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・なるべく子ども世代との同居を推進する。

・地域の活動の場で、共食の良さや孤食が生み出す問題を提示する場を設ける。

・テレビなどで孤食の問題を取り上げてくれるかと思う(高齢者の方がよく目にする広報媒体など)。

(Name : O・Y)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(13)

#### ①テーマについての問題・課題

・高齢者の孤食の増加。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・子ども(小中学生)と高齢者が一緒に食事づくりができる場を増やす!!

(Name : T・K)

### ながくての食育 取組・行動のアイデア(14)

#### ①テーマについての問題・課題

・若者が自炊する意識は高まっているので、情報さえあればバラエティに富んだバランスのいい食事を作る機会は増えるはず。買い物する場所がコンビニではなく、スーパーやあぐりん村であれば、旬の物や産地がわかりやすい。

・高齢者の孤食を減らすためには、必然的に人とコミュニケーションをとる場所があるといい。

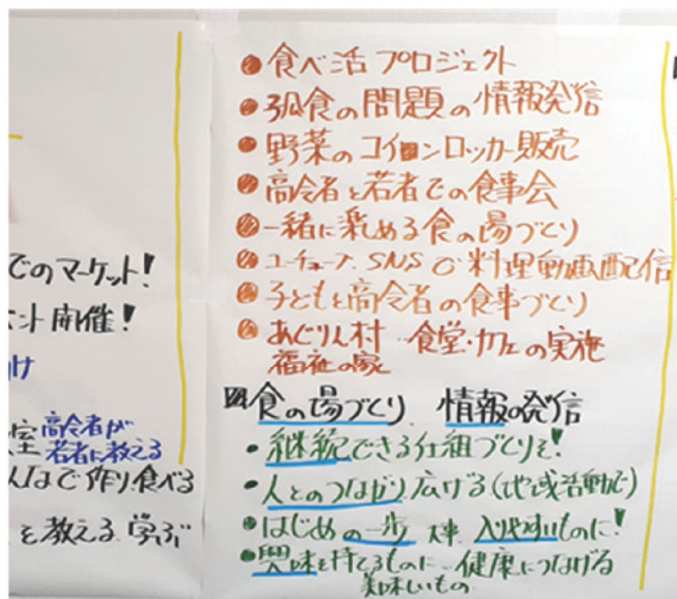
・共生ステーションに集う人は、もともとコミュニケーション能力が高い人ではないでしょうか。

#### ②課題解決に向けた取組・アイデア

・若年層が、あぐりん村で買い物をしやすいように、SNSで発信する。TikTokなど短時間で見やすいもので紹介して、ストーリーズにつなげるなど。

・高齢者が必然的に集う場所を、医療機関などが集中している場所につくる。そこを発信源とした、食堂・カフェ、福祉の家を活用してはどうか。

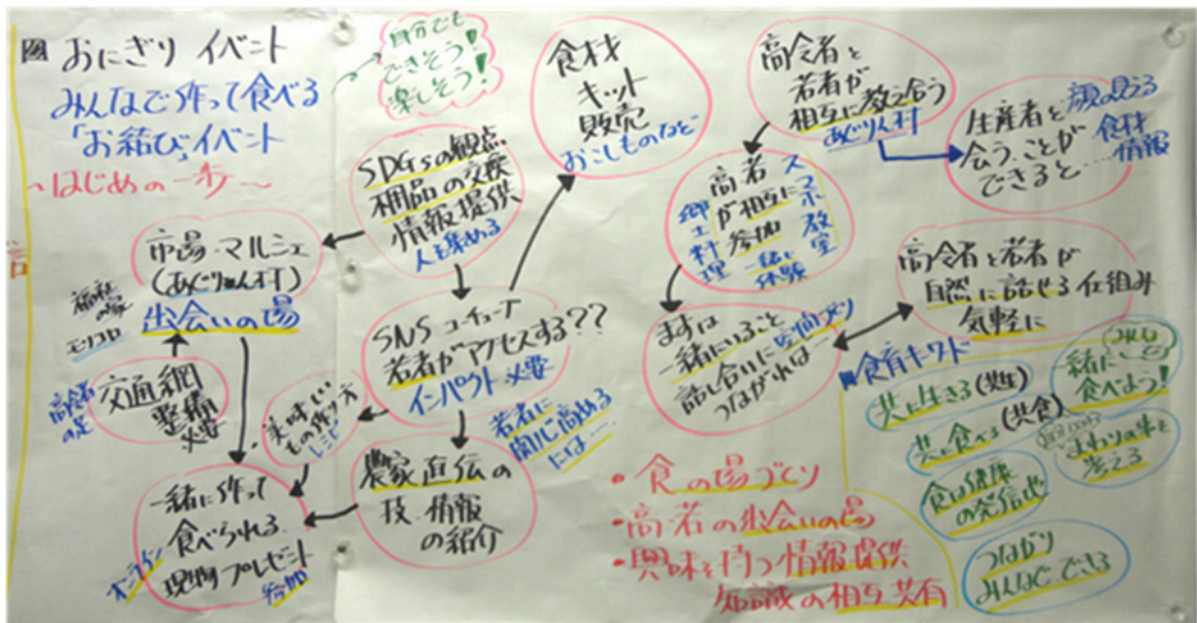
(Name : U・S)



## Step. 2 みんなでアイデアを練り上げよう！ Step3 一押し事業を考えてみよう！

すべてが素晴らしい取組といった意見もあって、いくつかの一押し事業に絞り込むことはできませんでした。参加者全員の発表を踏まえて、感想を含めて、意見交換していきました。意見の一例を紹介します。

- ・孤食、現在の食生活を問題視していない現状がある。食に関する情報提供が必要。高齢者が必然的に集まる場所（医療・福祉施設等）で情報発信するなどしたら、着実に反応すると思う。
- ・SNS や YouTube などを活用して若い方の関心を喚起する。そのためには何らかのインパクトは必要となる。農家さん直伝の料理方法とかがあれば、若者も学んでいくのでは。
- ・“つながり”が大事。若者も高齢者もつながりたいという思いはある。まずは「一緒の場にいる」ことが必要。
- ・若者と高齢者が「一緒に何かをすること」ができるといい。食事づくりの場を提供していく。「相互に教え合う」ような関係ができるといい。継続していけるようにすることも考えて。
- ・そうした人と人の関係が、お互いの助け合いの仕組みに発展していくとなおいい。
- ・参加しようと思う第一歩がまずは大きい。興味を持ってもらうこと（例えば、食べること）や、簡単にできること（例えば、おにぎりイベント）から始めるとか。



## Step.4 さいごに一言

長久手の食育で、大切にすべきキーワードを考えてもらいました。第2回ワークショップの意見交換を反映し、“共に生きる”『共生』、『一緒に食べよう』、“共に食べる”『共食』、『食は健康の発信地』、『周り（自分以外）のことを考える』、『つながり』などのキーワードが出てきました。



## 次回に向けて

次回のワークショップは、11月6日（土）10:00～12:00です。『計画（案）を見てみよう！』をテーマとし、計画の骨子（案）を見ていただきながら意見交換致します。今回はオンラインではなく、対面方式です。みなさんご参加ください。

長久手の食育を考えるワークショップ（事務局：長久手市建設部 みどりの推進課）  
Tel : 0561-63-1111（代表） Mail : midori@nagakute.aichi.jp 担当：都築、吉田

第3回

第3次長久手市食育推進計画策定に向けて

# 長久手の食育を考える ワークショップ

2021.11.06.Sat

News Letter



## 市民・地域の取組、企業・事業者の取組について考えてみました！

これまでのワークショップを踏まえ、事務局から食育推進計画の骨子（案）を提示しました。これに意見を加えつつ、長久手の食育推進のために、私たちが家庭や地域・職場で取り組みそうなこと、取り組むべきことは何かを考えてみました。その結果のあらましを紹介します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う「非常事態宣言」は9月末日に解除され、第3回ワークショップは、リリモテラス公益施設を会場に顔を会わせて開催することができました。

参加者は13名で3つのテーブルに分かれワークショップは始まりました。Step 1ではオンライン開催となった前回（第2回）ワークショップの結果を報告しました。

次に、Step 2では、事務局から提示した食育推進計画の骨子（案）に対して、共感できること、取組・行動で追加したいことを話し合いました。Step 3では、長久手の食育推進のために、私たちが家庭や地域・職場で取り組みそうなこと、取り組むべきことについて意見交換しました。

最後に Step 4では、「私の食育宣言」をしてもらって全3回のワークショップを終了しました。



### 第3回 ワークショップ

日時：令和3年11月6日（土） 10:00～12:00  
場所：リリモテラス公共施設 大廊下ほか

#### 【プログラム】

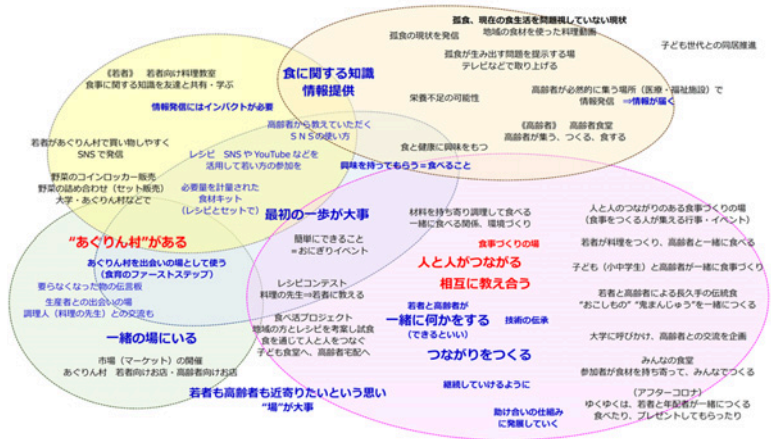
- 開会** あいさつ・趣旨説明
- Step. 1** 前回ワークショップのおさらい
- Step. 2** 計画の骨子（案）をながめてみよう！
- ・計画骨子（案）への共感意見「いいね♫」と、追加意見「プラスα」について話し合い
- Step. 3** 市民・地域の取組、事業者の取組について考えてみよう？
- ・私たち市民、地域、事業者が取り組むべきことについて意見交換
- Step. 4** 私の食育宣言
- ・全員が、自分自身の食育行動を宣言
- 閉会**

## Step1 前回ワークショップのおさらい

第2回ワークショップはオンライン開催となり、書面での参加となった方々も少なくなかったため、改めて、メンバーの皆さんから寄せられた「ながくての食育推進に向けた取組・行動のアイデア」を紹介することとしました。併せて、第2回ワークショップでどのような意見交換を行ったのかについておさらいしました。

食に関する知識・情報をしっかりと伝えていくこと、興味を持ってもらうこと、人と人とのつながりをつくること、長久手市にはあぐりん村をはじめ食育に有効な場があることなど、いくつかのポイントがあったことを紹介しました。

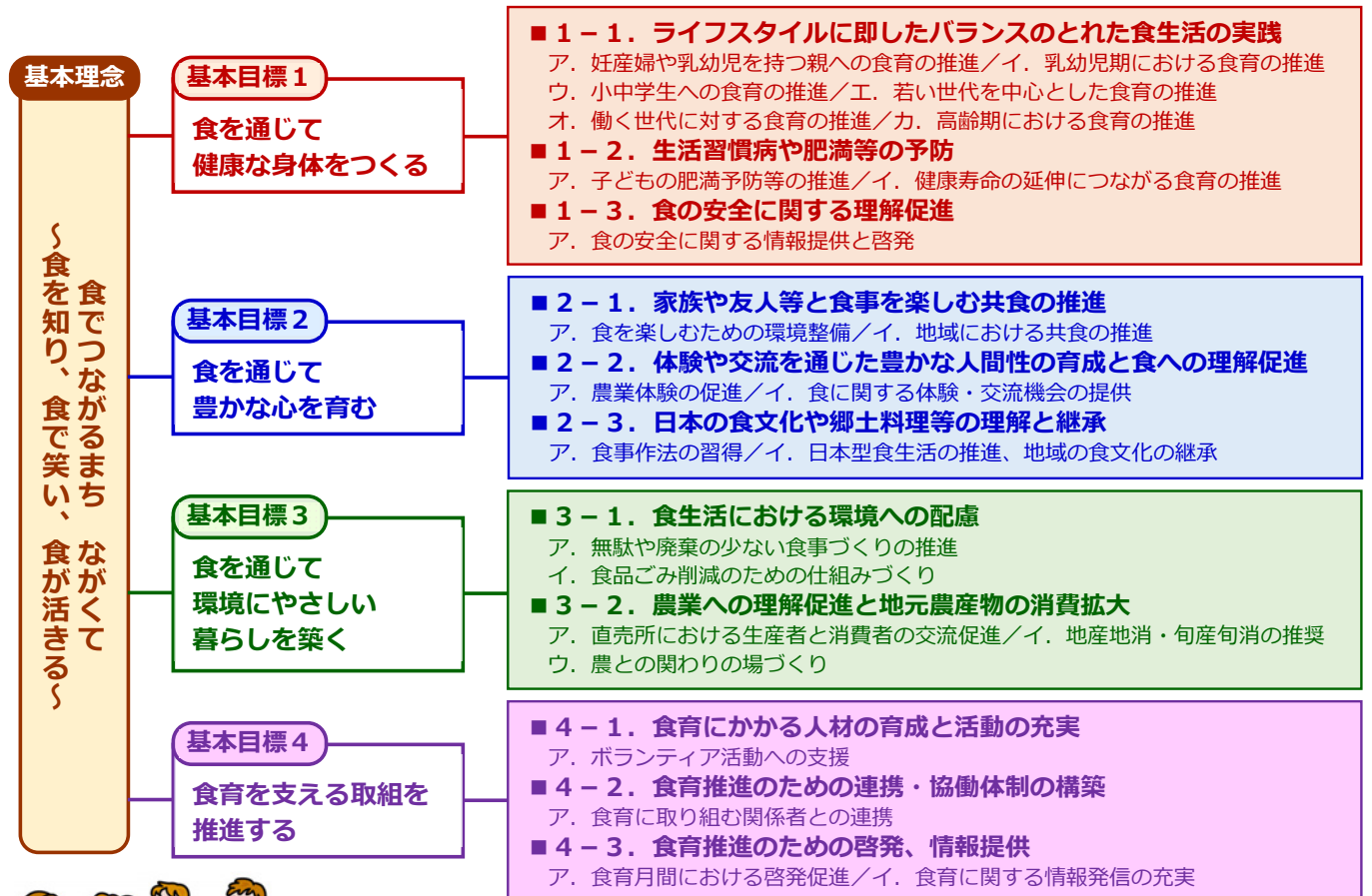
## 第2回ワークショップより



## Step2 計画の骨子(案)をながめてみよう!

第3次長久手市食育推進計画の骨子(案)を説明しました。計画の体系(大枠)は以下の通りです。「行政の取組(要点)」に関して、共感できること・いいと思えることには「いいね👍」カード(黄)、取組・行動で追加したいことについては「プラスα」カード(青)を貼り付け、グループ内で意見・感想を共有しました。

### 第3次長久手市食育推進計画 2022~2026 計画の体系 ~試案~





## 計画の骨子（案）への意見・感想（抜粋）

「いいね👍」カード (共感できること・いいと思えること)	「プラスα」カード (取組・行動で追加したいこと)
基本理念がイイネ.	知識の講座にとどまらず、参加者で実践して、その成果を検証する。(フォローアップが大切)
出前型情報発信 どこでやるか、どう伝えるかが大事だなと思うので、いいな…	つながりづくり(高齢者との交流) 高齢者が持っている食に関する知識⇒若者が発信する.
みんなの食堂(高齢者食堂/子ども食堂) いろいろできそう!	子ども食堂は、子どもだけの食堂ではないこともあわせて発信できたらいいな…
一緒につくり食べるイベント とにかく、みんなの集まる場で始める.	余剰食品の有効活用 農業者が廃棄する野菜を提供してもらう
レシピ付き、材料セットの販売 共働き世代の味方/何回もつくろうと思える	生産者との交流イベント 生産者ならではの食べ方、レシピ。試食できるとより良い
地産地消を積極活用 農に親しめる機会	給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進 どのように給食に地場産物等を導入できるか考える必要がある

## Step3 市民・地域の取組、事業者の取組について考えてみよう?

計画の骨子（案）に沿って、私たちが家庭や地域・職場で取り組めそうなこと、取り組むべきことについて意見を出し合い、グループ内で意見交換しました。

### 提示された意見（抜粋）

市民の取組 (個人・家庭で取り組めること、取り組むべきこと)	事業者の取組 (企業や事業所で取り組めること、取り組むべきこと)
高齢期における食育の推進 男性の独居コミュニティづくり	妊産婦や乳幼児を持つ親への食育の推進 子育てするパパ・ママが集まれるカフェ・市のHPで告知
食を楽しむための環境整備 朝ご飯を家で食べる.	若い世代を中心とした食育の推進 カフェメシのレシピ/キッチンカー大学へ(地元食材)
食に関する体験・交流機会の提供 地元野菜料理コンテスト SNSで発信する	高齢期における食育の推進 クリニックや薬局に、情報発信の場になってもらう
食事作法の習得 命をいただいていることを意識して、手を合わせて食べる	日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 飲食店のメニューに、長久手の特徴を入れてもらう
日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 伝統食、郷土料理をつくってみる(おこしもの等)	食品ごみ削減のための仕組みづくり 規格外の野菜の流通の仕組みをつくる⇒子ども食堂などへ
食品ごみ削減のための仕組みづくり 生ごみはぬらさない/食べ残しを減らす/コンポストにする	農との関わりの場づくり 農家さんと情報共有して、農業収穫体験する
地産地消・旬産旬消の推奨 長久手で生産されたものを食べる.	食育に関する情報発信の充実 デンソーのプロボノみたいな、IT系の方との関係づくり
地域の取組 (地域で取り組めること、取り組むべきこと)	
働く世代に対する食育の推進 食についての保護者向け講演会	
高齢期における食育の推進 地域のコミュニティで活動していることを発信する	
健康寿命の延伸につながる食育の推進 食と健康に関する出前講座の開催	
日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 共生ステーションでの「作って食べる会」の開催	
農との関わりの場づくり 地域の活動チームでイベントを立てる(イモ掘り等)	
ボランティア活動への支援 食イベントに若者のボランティア参加を促進する	
食育に関する情報発信の充実 引きこもっている人への声掛け(回覧板の充実)	



## Step4 私の食育宣言

全3回を通じたワークショップの締めくくりとして、参加者そしてスタッフ全員に、「私の食育宣言」をしてもらって終了しました。

私の食育宣言	
「私は、“食でつながる ながくて”の実現に向けて、〇〇〇に取り組んでみようと思います。」	
隣の人への声掛け（何食べた？）	感じること
積極的に発信すること	地元のものを選んで食べる（規格外があれば選ぶ）
コンポストの活用と拡大	食のエコに努める
「一緒に畑を耕し、一緒に食べる」仲間づくり	地域で何がどこで生産されているかを知ること
生産 → 料理 → 食べる → 発信	めぐりん村にたくさん行ってみる
食に関わるすべての人、命に感謝する	まず自分が、地産地消に取り組み、友人等におしり
明日の朝ごはんをバランスよく	多くの人と食事をする
農業を全力で	まずは、自分の食事の見直し
コミュニティづくりと関わり方	食に関する勉強会をのぞいてみる
必ず誰かと食べる	

## おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、第2回ワークショップは紙面による意見募集とオンラインによる意見交換に変更となりましたが、計3回のワークショップを無事に開催することができました。いただいた貴重な意見を計画策定ならびにその後の事業推進に活かしていきたいと思っております。

最後に、参加者の方々からいただいた、ワークショップ開催に関する感想を記します。

意見等
・資料の準備がしっかりされていて、とてもスムーズにいったと思います。ありがとうございました。
・“食”を通じて、いろいろな方とお話しできて、とても楽しい時間でした。これを機会に、1つでも何か取り組んでいけたらと思います。
・方向性が見えたので、実行し、今後につなげたい。続けることが大切。
・若者の意見も聞いて、大変に食に関する幅が広がった。
・10年ほど前から長久手の食に関わるイベントに参加させていただいてます。給食やボランティアについて、長久手は充実していると思います。
・改善すべきは、高齢者でも人脈もあるのに、発揮する場がないことです。ある程度強制的にでも良いと思うので、ご退官された方を引っ張ると市が変わると思います。
・知らないことをたくさん教えていただき理解が深まりました。長久手市の良い資源をより良く使っていけるように日々考えます。ありがとうございました。
・管理栄養士の立場として参加させていただき、とても多くの課題があることを知りました（長久手市だけではありませんが…）。その課題に今後しっかりと取り組んでいきたいと思っております。3回にわたりありがとうございました。
・普段、食について考えることがありませんでしたが、色々な考え方があり、勉強になりました。ありがとうございました。
・1・2回目の講座で話し合ったことが、分かりやすくまとまっていて、今日はたくさんの課題やアイデアが出ました。
・まず、自分から出来ることを実践していこうと思います。このワークショップに参加することで、出会いがあり、情報を得ることもあり、とても楽しかったです。最後に「誰かと一緒に食べる」はすごく良かった!! ナイス!
・多くの面に渡る点でお話聞けたのと、食を考えて意見交換の場が貴重でした。
・多くの意見を自分に生かしたい。
・ぜひ愛知医科大学にもキッチンカーが来て欲しいです。
・いろいろなお話、考え、想いを知ることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

長久手の食育を考えるワークショップ（事務局：長久手市建設部 みどりの推進課）

Tel : 0561-63-1111（代表） Mail : midori@nagakute.aichi.jp 担当：都築、吉田



### **第3次 長久手市食育推進計画**

2022年(令和4年)3月 発行／長久手市 建設部 みどりの推進課

〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1

TEL. 0561-63-1111(代表) FAX. 0561-63-2100 E-mail. [midori@nagakute.aichi.jp](mailto:midori@nagakute.aichi.jp)